

特集

教育学者 清水一彦さんと考える 日本の教育 (1)

目次

- グラビア …… 01 ~ 02
- 特集 日本の教育 (1) 6・3・3・4の学制はいまのままでいいのか …… 03 ~ 09
- 変革の時代に船出する学生たち …… 10 ~ 12
- 平成 26 年「追悼のつどい」 …… 13
- 季刊誌『茗溪』 正月号に誌上名刺交換掲載ご協力のお願い …… 14
- 平成 26 年度『茗溪フェロー』ご協力のお願い …… 14
- 平成 26 年度前半『茗溪フェロー』協力者ご芳名 …… 15
- 著書紹介 …… 15
- 筑波大学は今 …… 16 ~ 17
- 『岳東寮』で“畏敬の念”にふれる体感を！ …… 18 ~ 19
- 茗溪・東西南北 …… 20
- 平成 26 年度茗溪会支部等組織表 …… 21
- 茗溪学園だより …… 22
- 桐の葉のつどい …… 23 ~ 24
- 追悼録 …… 24
- 広報 …… 25
- 編集後記 …… 25

茗溪



秋

2014

平成26年

no.1083



Juchheim
SEIT 1909

日本のバウムクーヘンの歴史は
ユーハイムから始まりました。



まっすぐなおいしさ

日本で初めてバウムクーヘンが焼かれたのは1919年(大正8年)のこと。
創始者カール・ユーハイムの焼きあげたバウムクーヘンへの想いは
今も変わらず、職人から職人に受け継がれています。

ユーハイム®

www.juchheim.co.jp/juchheim
〒650-0046 神戸市中央区港島中町7-7-4

お客様係 TEL 0120-860816

受付時間：平日(月～金) 9:30～17:00(年末年始を除く)
携帯電話・PHSからはご利用いただけません。

食の提供 (アウトソーシング)

社員食堂 / 寮・研修所・保養所・研究施設 /
学生食堂 / レジャーレストラン / カフェ

お仕事に、勉強にがんばる皆様を食事面からサポートいたします。
空間づくりなども含めた委託運営を行っています。



学生食堂

～学校ブランドを高める空間づくり～

学生の皆様にとって、大切な思い出の一つになる学生食堂。
学校それぞれの教育方針に沿って運営を行いながらも、
学生層に合わせ、トレンドを意識したメニューをご用意。
カジュアルさとおいしさで好評をいただいています。
また、売店の運営やスクールバスの運行など、トータルでの
サポートも可能です。

寮・研修所・保養所・研究施設

～やすらぎと栄養バランスを考えた食事提供～

各施設の運営方針やご利用者の年齢層に応じたメニューを
提供。栄養バランスを考慮した食事を提供するだけでなく、
研修施設では研修期間や日程などの利用状況に対応した運営を
心がけ、「食」を通じて家庭にいるような安らぎを提供すること
を目指しています。食事以外にも、施設管理全般にわたる管理
業務も行っていきます。



はぐくむ、大切なことのすべて

SHIDAX

シダックスフードサービス株式会社

シダックスグループ営業開発本部

〒150-0041 東京都渋谷区神南 1-12-13 渋谷シダックスビル3F
TEL.03-5784-8853 (代表) FAX.03-5784-8842

KAIT

力と自信がつく教育で
「考え、行動する人材」を育成します。

〈4つのスーパーサイエンス特別専攻〉

- 環境エネルギー ■ 医生命科学
- ICTスペシャリスト ■ 次世代自動車開発

2014年度
4月新設

科学的センスとクリエイティブな実践力を身につけた
理数系教員を養成する

STC サイエンス・ティーチャー
SCIENCE TEACHER COURSE 養成コース



神奈川工科大学
KANAGAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野1030
TEL.046-291-3002 URL:http://www.kait.jp/

理事長 中部 謙一郎
理 事 河野 隆二(S47農)
顧 問 清水 進一(S43理 数) (神奈川茗溪会 会長)
監査室 矢野 正人(S53院修 農) (同 事務局長)

工学部

機械工学科(航空宇宙専攻含む)
電気電子情報工学科
応用化学科

創造工学部

自動車システム開発工学科
ロボット・メカトロニクス学科
ホームエレクトロニクス開発学科

応用バイオ科学部

応用バイオ科学科
栄養生命科学科
[管理栄養士養成課程]

情報学部

情報工学科
情報ネットワーク・コミュニケーション学科
情報メディア学科



追悼のつどい

平成26年9月13日(土)
筑波大学大学会館にて
(P.13参照)



江田昌佑理事長挨拶

関係者による懇談会

平成 26 年度茗溪会学生活動支援のための助成金

茗溪会の筑波大学支援事業の一つとして、今年で 10 回目となる学生活動支援助成金の目録贈呈式が 7 月 10 日に筑波大学学長応接室において、江田昌佑茗溪会理事長から永田恭介学長に贈呈されました。引続き、総合交流会館において江田理事長から各団体の代表者（13 団体）に助成金決定通知書が手渡されました。

— 助成金が交付された団体は、次のとおり。 —

1. 第 34 回筑波大学オリエンテーリング大会（オリエンテーリング部）
2. 茨城県銚田市大竹海岸海水浴場監視救助業務の安全性の向上（ライフセービング部）
3. 体育会所属団体の応援活動、スポーツ・デーなど学内行事の広報活動、つくばマラソン等つくば市内の行事の応援活動（応援部 WINS）
4. ロボットコンテスト参加に向けた活動及びメンバー間による技術交流（つくばロボっとサークル）
5. 学び場さくら塾（学び場さくら塾）
6. ハイブリッドロケット及び小型模擬衛星の開発（筑波大学宇宙技術プロジェクト）
7. 学内宿舎敷地内に生息する猫の保護・管理及び TNR（避妊・去勢手術）活動（HsCaT）
8. 第 7 回筑波学生文芸賞（筑波学生文芸賞運営委員会）
9. 第 40 回筑波大学学園祭「雙峰祭」（平成 26 年度筑波大学学園祭実行委員会）
10. 「プレゼンひろば」と「駅前キャンパス」（つくば院生ネットワーク）
11. 第 4 回ふるさとつくば ゆいまつり（ふるさとつくば ゆいまつり実行委員会）
12. 星空野球教室（筑波大学大学院野球コーチング論研究室）
13. 筑波大学附属病院前ガーデンプロジェクト（筑波大学附属病院前ガーデンプロジェクト）



左、永田学長、
右、江田理事長



特集

教育学者 清水一彦さんと考える 日本の教育 (1)

P. 3～9 参照



山中共同研修所から望む「逆さ富士」 撮影・筑波大学・大学院教授 田中 博氏
(P.18～19 参照)

6・3・3・4の学制はいまのままでいいのか



清水一彦さん

● 清水一彦さん

1974年
東京教育大学教育学部
教育学科卒業

1980年
筑波大学教育学研究科
博士課程単位取得退学

1997年
博士（教育学）

- ・専門は教育制度学
- ・日本教育学会理事
- ・日本教育制度学会理事（事務局長）

● 藤田晃之さん

1988年
筑波大学第二学群人間
学類卒業

1993年
筑波大学大学院博士課
程教育学研究科単位取
得退学

1995年
博士（教育学）

- ・専門はキャリア教育学
- ・日本教育制度学会理事
- ・日本キャリア教育学会理事

● 庄司一子さん

1979年
筑波大学第二学群人間
学類卒業

1984年
筑波大学大学院博士課
程心理学研究科単位取
得退学

1994年
博士（心理学）

- ・専門は教育臨床学
発達臨床心理学
- ・日本教育心理学会理事

そのためにふさわしい学校制度はどうあるべきか」を教育学者清水一彦さんと話し合っていたのは、筑波大学人間系教授で教育臨床学や教育相談が専門の庄司一子さんと同じく筑波大学人間系教授でキャリア教育が専門の藤田晃之さんです。

藤田晃之さんには、今回から連載が始まる「教育学者 清水一彦さん」と考える日本の教育」シリーズの進行役もお願いしています。

わが国の6・3・3・4の学制は、戦後の占領下にあった1947年（昭和22年）4月に、復興をめざす日本の新しい学校制度としてスタートしました。

敗戦後の財政的に厳しい状況にあったわが国が、初等教育だけが義務教育であった戦前の学制を超えて、小学校6年中学校3年を義務教育とする新しい学制を選択したねらいはどこにあったのでしょうか。

しかし、この学校制度も70年近い歴史の中で、進学率の高まり、学力の低下、学校に適應できない子どもたちの増加など、学校現場に新たな課題が押し寄せ、制度の見直しが求められるようになってきました。

戦後復興の途上にあつて、さまざまな課題を乗り越えながらスタートした6・3・3・4の学制のめざしたものは何であつたのかを検証しながら、「今日のわが国の学校は何をめざすのか。戦後復興の途上にあつて、さまざまな課題を乗り越えながらスタートした6・3・3・4の学制のめざしたものは何であつたのかを検証しながら、「今日のわが国の学校は何をめざすのか。

【いなぜ学制改革が求められるのか】

6・3・3・4の学制は制度疲労を起こしている

藤田 今年の夏7月3日に、政府の教育再生実行会議は「小学校6年中学校3年という区切りを見直そう」と、小中一貫教育の学校を提言しました。

清水先生は、戦後の占領下にあつて理想を掲げてスタートした6・3・3・4の学制も70年近い歴史の中で制度疲労を起こし、見直しが必要であるとかねてから主張されています。まず、現在の学制はどこに問題が起きているのか、その原因はどこにあるのかという点から話を進めていきたいと思います。

清水 私は教育制度を専門としており、これまで日本の学校に適した制度は何かを考えてきました。その一つが6・3・3・4の学校制度の改革です。

組織や体制には改革の40年サイクルというものがあるが、エレクトロニクスの技術革新も研究者の世代交代もほぼ40年で進んでいます。また政治の世界でも、わが国の55年体制が崩壊したのも、ベルリンの壁が崩壊したのもほぼ40年でした。

もっと身近なことという、筑波大学は昨年40周年を迎え、「新構想大学」から「未来構想大学」へ向かつて、当初の三学期制を二学期制のセメスター制に変えたほか、新たに小学校課程を設置するという大学の歴史を含めても画期的な改革を行いました。この改革には、最初は文部科学省もびっくりしていましたが、附属小学校を含めてわが国の初等教育に優秀な研究者、実践者を送り込むという筑波大学の意図を認めてもらい、この改革がスタートすることになったのです。

こういう改革のサイクルを見ても、わが国の6・3・3・4の学制はもう70年近くたっているわけですから、制度疲労が激しく、いろんなところに問題が起こつていて、見直しが必要になっているのです。

「いじめ」や「不登校」が増えている

清水 ではどんなところに制度疲労が現われているかというと、一つ目は、小1プロブレムとか中1ギャップとか言われていますが、制度の区切りのところにさまざまな問題が起こってきています。

われわれ研究者もこれまで「初等教育はこうあるべきだ」とか「中等教育、高等教育はこうあるべきだ」ということは研究してきましたが、制度の区切りや移行期のところについてはあまり研究の対象にしてきませんでした。

ところが「いじめ」や「不登校」の問題がクローズアップされるようになり、私も教育制度の観点からこの問題を研究するためのプロジェクトを立ち上げ、庄司先生にも入ってもらって大規模な調査を行いました。

調査のきっかけとなったのは、諸外国では学年が上がるごとにいじめの件数が増えるという共通の傾向があるのに対して、わが国では文部省（文部科学省）が統計を取り始めた昭和60年以降、一貫して小学校から中学校への移行期にあたる中学校1年の時にいじめが際立って集中しているということでした。不登校についても中学校1年から学年を追うごとに増えているということもわかってきました。

そして、その調査によって、いじめの発件数が中学校の1年でピークになることと、不登校が中学校の1年から増えるということには相關関係にあることが

大学進学率に制度の改革が追いついていない

清水 二つ目の問題は、大学進学率が56%になっているにも関わらず制度がそれに追いついていないということです。

アメリカの社会学者M・トロウのモデルでいうと、わが国の大学進学率はエリート型→マス型→ユニバーサル・アクセス型の最終段階に入っていて、この段階では学校制度だけでなく教育制度全体が大きく変わらなければならぬのに、入試のあり方とか教育内容や教育方法が依然としてエリートやマスの時代と変わっていません。そのために、高校教育にさまざまな歪みが生じていて、高校と大学の関係も新たに接続の視点から「あるべき姿」を考えることが必要になってきているのです。

この接続の問題は、学校制度改革について考える上で最も重要なポイントなので、後ほど詳しくお話したい。

M・トロウのモデル（該当年齢人口に占める大学進学率が15%までをエリート段階、15%から50%までをマス段階、50%以上をユニバーサル・アクセス段階と分類した）

藤田 いま清水先生から、「いじめ」や「不登校」の問題

も現在の6・3・3・4の学制の制度疲労が原因しているという指摘がありました。庄司先生は教育臨床学の立場から、この問題をどのように考えていますか。

庄司 小学校から中学校に移行する段階で子どもたち「いじめ」や「不登校」などさまざまな問題が急増するということについては、私たち教育臨床学の立場でも重く受けとめています。

実は、子どもたちの発達や教育の危機はいろんなところにありまして、学年が変わったり、クラスが変わ



庄司一子さん

ったり、転校したりという、子ども自身の環境が変わるときがその一つです。

そして、もっと大きな危機は、小学校から中学校へ学校段階が変わるときです。この学校段階の変化は、すべての子どもたちに共通して起こることであって、しかもこれまでの調査研究でも、この段階で「いじめはピークになる」、「不登校が急増する」ということが明らかになっていますので、学校制度の見直しは喫緊の課題であると考えています。

清水 庄司先生から、子ども自身の環境変化からくる発達や教育の危機があるという話がありましたが、社会から見たらされるもう一つの危機もあるのです。

それは、わが国では、国民の意識の中に、学校段階と「子供らしさ」を結びつける傾向が極めて強いということからくる危機です。

小学生は小学生らしく、中学生は中学生らしく、高校生は高校生らしくといった国民的なイメージが固まっていて、それが子どもたちの大きな負担になっている。

特に、小学校から中学校に移ったばかりの精神的・情緒的に不安定な中学校1年の子どもたちにとっては、学級担任制から教科担任制へ移行したり、学校の決まりが厳しくなったりする時期と重なって、耐え難いギャップを経験することになっているのです。

こうした問題も、学校段階のスムーズな移行ができれば少なくなるはずであると考えています。

【戦後の6・3・3・4の学制は どのようにして誕生したのか】

藤田 お二人の話でも、わが国の現在の6・3・3・4の学制は、さまざまな形で問題が起っていて、改革が求められていることですが、では「戦後の占領下の日本で、なぜいまのような制度が誕生したのか。また、そのねらいはどこにあったのか。」を少し紐解いてみたいと思います。

6・3・3・4の学制は、 アメリカから押しつけられたものではなかった

藤田 戦前の義務教育はもとも初等教育しかありませんでした。

それが戦後の新しい学校制度では、小学校6年と中学校3年を義務教育化しようということになりました。戦前のように小学校6年終了の段階で早期にエリートとノンエリートに分けて教育することはやめ「単線型」の学校体系にして、みんな一緒に教育しようというねらいでスタートしたのです。

その当時、アメリカの教育使節団も来日していて、わが国の新しい学校制度のあり方についての提言を行っています。当時の文献や資料を調べているうちに興味深い事実がわかりました。



藤田晃之さん

私たちは、これまで6・3・3・4制というのはアメリカから押し付けられた制度のように理解していましたが、実はそうではなく、アメリカのものととの提言は6・5制であって、6・3・3・4制というのは日本側が考えていたプランであったということです。

ですから、6・3・3・4制というのは、決してアメリカに押し付けられた制度ではなく、日本のオリジナルという側面をもった制度であるともいえるのです。清水 アメリカが6・5製の制度を提言していたということはあまり知られていないことだと思いますが、どのような考え方だったのですか。

藤田 アメリカは、当初6年間の義務教育プラス5年間の義務教育を構想していたようです。ただ日本政府としては、義務教育は無償という前提ですから、11年間の無償制度は財政的に持ちきれない。

それから、日本側には先ほど触れたように、もともと6・3・3・4製の学校制度を考えていたこともあって、仮に義務教育を6・5の11年にすると、高校の途中で義務教育が終わって世に出る生徒と、もう1年残って大学をめざす生徒に分かれてしまう制度になりますから、日本側としてはその案は飲めないということになり、折衝の結果、教育使節団の提言は最終段階で6・3・3・3制になったようです。

清水 アメリカの義務教育はいまでも州によって、9年であったり、10年であったり、11年の州があったりというように義務教育の年限と学校段階が一致していないケースがありますから、そういう意味では教育使節団の当初の提言に義務教育6・5制があったかもしれませんね。でも、それが実現しなかったのは、やはり財政問題が一番だったのではないのでしょうか。

戦後の学制改革の特徴は一元化にある

清水 わが国の戦後の学校制度は6・3・3・4制でスタートしましたが、私は戦後の学制改革の最大の特徴

は一元化にあったと考えています。戦前は、ある学校に行ったら上にいけないというような袋小路的な分岐型の学校体系になっていましたが、それを戦後の学校制度改革では、中等段階で一元化したのです。

また、この一元化を促す要因として意外と知られていないのが青年学校の存在でした。青年学校というのは小学校からつながる青年男子の行く学校で、戦時下では多くの卒業生が戦場に送られ尊い命を落としました。旧制の中学校や高等学校を出た人たちは将校となり、前線で尊い命を落としたのは青年学校の人たちであつたという不満があつて、戦後の学制改革に際しては「同じ世代の人たちは同じ学校で学ばせたい」という嘆願書が青年学校の関係者から文部省に何百と寄せられたということもあつたようです。

その意味では戦後の学制改革の背景を見ると、日本の学校制度づくりというのはアメリカ主導でやったわけではなく、流れを変えようという内からの動きもあつたことを私たちは知っておくことが必要だろうと思います。

戦後の学制改革には犠牲も伴っていた

清水 もう一つ、戦後の学制改革では、多くの犠牲や痛みがあつたことについても触れておきたいと思っています。6・3・3・4制は、1947年(昭和22年)の4月1日から実施することになり、中学校も義務教育になりましたから、戦後の焼け野原の中で、「学校も建てなければならぬ」「先生も集めなければならぬ」「教材もそろえなければならぬ」という困難な課題を抱えて、教育長や校長など教育関係者の中には、自殺する人も決して少なくなかったようです。

藤田 6・3・3・4制を日本政府が考えていた背景には、そういう戦前の青年学校の問題があり、制度のスタートにあたって多くの犠牲が払われ、痛みを伴ったスタートだったのだということが良くわかりました。



【学校制度の改革で重要なのは

アーティキュレーションだよね】

藤田 先ほどお二人から、小学校から中学校に変わるときに「いじめ」や「不登校」などの問題も増えていて、学校段階をスムーズに移行できるような制度設計が求められているというお話がありました。学校段階の「区切り」についてはどのように考えたらいいでしょうか。

清水 この問題を考える時に重要になってくるのは「アーティキュレーション」(articulation)という考え方で、ここで「アーティキュレーション」について説明しておきたいと思います。

戦後のわが国の6・3・3・4という学制は、能力があればどんな上になれるという、単線型の民主的な学校制度で、19世紀にアメリカで樹立された制度ですが、この単線型の制度で重要視されなければならぬのが「アーティキュレーション」という考え方で

す。

この言葉は、一般には「接続」と訳されていますが、医学では関節を指す言葉で「骨と骨をつなぐ」という意味があり、また音声学では文節を表す「節をつける」という意味で使われています。つまり、アーティキュレーションという言葉はいくつかに区切った段階をうまくつなげるということを意味しており、私は教育学の世界で「分けてつなぐ」という意味で使っています。

単線型の学校には、10年制や12年制というような初等教育から中等教育までずっとつながっている学校も諸外国にはありますが、必ずしも教育効果が上がっているわけではありません。

単線型の学校体系であっても、子どもたちの望ましい成長発達のためには、「アーティキュレーション」つまり「分けてつなぐ」ということが必要なのです。

従って、学校制度の上で「アーティキュレーション」が重視されなければならないのは、かつてのヨーロッパのようなエリートや貴族の学校と庶民の学校が併存する複線型の学校体系においてではなく、わが国やアメリカのような単線型の学校体系を持つ国において問題となるのです。

藤田 そうしますと、戦後のわが国の学校制度は、清水先生が指摘されたように単線化してスタートしたので、6・3・3・3・4の学校制度の課題は、まさに「アーティキュレーション」であつたのですね。

清水 実は、昭和20年代後半に文部省が接続に関する調査をしたことがあるのです。この調査はまさに「アーティキュレーション」の問題意識をもつて行つたと思えるのですが、しかし残念なことに、それ以降、1999年(平成11年)の中教審答申『初等中等教育と高等教育の接続の改善について』まで「接続」という言葉は答申には一切出てきませんでした。

藤田 昭和20年代に接続に関する調査を行いながら、50年近くも接続の議論がなされないまま今日まで来てしまった原因はどこにあったのでしょうか。

清水 一番の理由は、アメリカの民主的な制度というものを十分理解していなかったということでしょうね。システムは持つてくるけれども、そのシステムに魂を入れて普及させようという発想がなかった。システムには本来理念とか魂があるのに、そこを理解しないで形だけを取り入れたということだと思います。

それは私が専門としている大学の単位制度でも同じことがいえます。単位制度は、アメリカではおおよそ1

30年前に開発されましたが、これはFD (Faculty Development) とかGPA (Grade Point Average) とか、それらがセットでなければいけないのに、日本では単位制度は導入されたけれど、FDはようやく2007年に義務化され、GPAに至ってはまだ全国で半数くらいしか導入されていません。筑波大学でもGPAは今年から全1年生に導入されたような状態です。単位制度はFDとかGPAとセットで生まれてきた制度であることが、わが国では理解されてこなかったのです。

FD (大学の授業改革のための組織的な取り組み。

大学制度の理念・目的・役割を実施するための教授団の資質開発)

GPA (欧米の大学で行われている学生の成績評価方法の一つ)

【学制改革のために、 これまでどのような議論があつたのか】

藤田 さて、戦後の6・3・3・4の制度がスタートしてから70年近くたつて、清水先生が指摘されたようにさまざまな形で制度疲労が出てきていますから、これまでも改革のためのさまざまな検討がなされてきたと思うのですが、どのような議論や検討があつたのでしょうか。

清水 戦後の学校制度史というのは、まさに改革の歴史であつて、6・3・3・4制を見直そうという論議は常になされてきました。その中でも最も大きな反響を呼んだのは、いまから40年ほど前の1971年(昭和46年)の中教審答申『教育改革のための基本的施策』(46答申という)でした。

この答申では、初等・中等教育改革の基本構想のもと、人間の発達過程に応じた学校体系の開発が提言さ



れ、「幼児と小学校の低学年を一緒にする」「中・高を一貫にする」「従来の6・3・3・4制を見直す」さらに「高等専門学校のような中等教育と前期高等教育の一貫性を図る」というような、かつてない先駆的なものでした。しかし、この46答申は否定され実行されることはありませんでした。

藤田 そういう先駆的な答申があつたにも関わらず、なぜ実行されなかったのですか。

清水 一番の理由は、教育改革を支える基本的な理念や具体的な制度原理が十分研究されていなかったということだと思われます。これも先ほど触れたように、システムを変えようというスローガンはいいけれども、その改革の理念というか、魂の部分が追いついていなかったということだと思います。

藤田 やはり表層的な制度いじりの話で終わってしまったということなのですね。

では、実行されなかったけれど大きな議論を呼んだ46答申から40年たつたいま、私たちはこれからどのような教育制度を構築していったらいいのかということに話を進めていきたいと思います。

「わが国の学制改革はどうあるべきか」

高校には義務教育と高等教育の橋渡しの機能を持たせたい

清水 私の第1の提案は「高校教育の位置づけを見直すこと」です。

わが国の場合、明治以来の教育政策の中心が義務教育におかれ、また、戦後の6・3・3・4

制においても義務教育と義務後教育という考え方が強く、今でもそれは変わっていないと思われます。

そのため、現行の6・3・3・4制は、中学校はジュニア・ハイスクール、高校はシニア・ハイスクールという名前になっているように、本来は、3・3を一貫に中等教育として位置づけて、それを小学校とつなげるという設計であつたにもかかわらず、現実には義務教育の実施が最優先されたため、小学校6年と中学校3年が義務教育として強くつながり、その上に高校3年が置かれるという制度になっています。

つまり、わが国では高校教育が中学校教育とは十分に結びつかないまま今日まで来てしまったため、それを何とかしようというところから「中高一貫」の考え方が生まれてきたのです。

藤田 いま、公立学校での「中高一貫」の試行が始まっていますが、公立の場合は中学校と高校の設置者が違うし、法制上も教育目標が違っていますから、公立の中高一貫校というのは課題が大きいのではないのでしょうか。

清水 現在、高校教育の改革の方向として、公立学校における「中高一貫」と「高大接続」が模索されていますが、「中高一貫」は藤田先生が指摘されたように課題が多いだろうと思います。

また「高大接続」についても、高校の教育と大学の教育が法的にはつながっていないという現状に風穴を開けるということでは大きな意味がありますが、この方向が高校教育のあり方や高校の位置づけを考えるには、必ずしも望ましい方向ではないと思っています。

では、高校をどう位置づけたらいいのかということですが、私は、高校には、先ほど紹介した1999年（平成11年）の中教審答申『初等中等教育と高等教育の接続の改善について』で提言されたように、普通教育である「初等中等教育」と学術の場としての「大学教育」とのアーティキュレーションという方向で考えるべきであり、高校に「義務教育」と「高等教育」の橋

渡し的な性格と役割を与えるのが、日本的な姿であるように思われます。

1960年代以降に誕生したアメリカのミドルスクールは初等教育とハイスクールとの橋渡しの学校として発展しましたが、わが国の場合には、義務教育という概念が強いこともあり、むしろ高校の方にミドルスクールと同じような学校段階の中間的な性格と機能を持たせるのがいいのではないかとというのが私の第1の提案です。

学校制度改革は子どもたちの発達権や学習権を保障するものでなければならない

清水 私の第2の提案は、「学校制度改革は子どもたちの発達権や学習権を保障するものでなければならない」ということです。

一般に、学校制度における段階的区分（区切り）を決定する要因は3つあり、一つ目は「学習者の心身の発達段階である心理学的要素」、二つ目は「教育目的や教育内容に関わる教育の必然性」三つ目は「社会経済的水準」です。このうち最初の心理学的要素は最も大切なもので、学校制度の改革では子どもの発達権や学習権の保障を重要な視点として設定しなければならぬと考えています。

子どもの発達や学習を重視する目線で改革をしないと、どんなに素晴らしい制度をもつてきても成功しないだろうと思います。

藤田 子どもの成長発達というのは区切りがあるものではないので、学校制度を便宜的にどう区切っていくかということを考える時には、当然、その根拠や理念が求められますよね。

清水 かつてアメリカの教育哲学者ジョン・デューイが「教育の過程は連続的な成長の過程であり、その各段階の目標は成長する能力をさらに増進させることにあ



る」と述べたように、子どもたちの成長発達には連続した過程にありますから、子どもたちの成長発達を促すためには、学校制度のどの段階で区切りをつけていくのか、なぜその段階で区切るのかということについての基本的理念や根拠がなければならぬだろうと思います。

藤田 いま清水先生から、学校制度の改革では「子どもの発達権や学習権の保障が最も重要な視点である」というお話がありました。が、庄司先生はどのように受けとめられましたか。

庄司 子どもたちの成長発達のプロセスにおいては、順調に成長していくこともあれば、いろんな困難を抱えてしまうこともあります。成長発達の過程で起こるさまざまな問題は、学校制度のあり方とも大きく関連していると受けとめました。

子どもの成長発達に気がかりなことがある

庄司 ここで、学校制度の改革とは少し離れるかもしれませんが、私の専門の立場から、最近の子どもたちの成長発達の仕方に気がかりなことがあるので、お話してみたいと思います。

子どもたちは、一般的にはギャングエイジの時代、チャムの時代、ピアの時代を経て、人間関係を身につけていくといわれていますが、こうした成長のプロセスを経ない子どもたちの仲間関係の問題が指摘されています。

ギャングエイジを経験しない子どもたちも増えていきますし、ギャンググループも異年齢の子どもたちの集団ではなく、同じ学年の同性の

集団になっています。また、チャムの時代も肥大化（長期化）して、いつまでもチャムの段階にとどまっている子どもたちも多く現われていると言われています。

ギャングエイジ（小学校の中学年から高学年にかけて、

集団をつくり、集団内の役割や決まりをつくり、役割分担や協力することを学び、仲間意識を発達させる段階）

チャム（大人から自立しようとするが、友達関係はまだ深いものではなく、表面的につながっている段階）

ピア（お互いの違いや個性を認め合い、人格的なつながりができるようになる段階）

「いつメン」という言葉を知っていますか

庄司 お二人は「いつメン」という言葉を知っていますか。

これは「いつものメンバー」のことで、子どもたちは親も教師も知らないところで、ネットや携帯でつながっている仲間がいて、特定の分野の情報を共有したり、何かをやりたいときに集まったりするという付き合いをしているのです。

そして「いつメン」的なチャム段階の人間関係を持つ子どもたちの年齢は低年齢化し、しかも肥大化（長期化）して、本当の人間関係を築くピアの段階に入れない子どもたちが増えているのです。

藤田 いまのお話を伺うと、チャムのような表層的なつきあいしかできない子どもたちが増えていて、しかも低年齢化するとともにその期間が長期化しているというのですが、これは、子どもたちの成長発達に大きな影響がありますね。

庄司 子どもたちのこのような人間関係は、実は「いじめ」の問題とも深く関わっているのです。「いじめ」がどのような友達関係の中から生じているかという点、

本当に親しい友人どうしの間では起こらない、ちょっとした顔見知りの間でも起こらない、ある程度知っているという人間関係の間で起こるとされています。

しかも、そのピークが、小学校から中学校に移行する中学校の1年でピークを迎えるということは、現在の学校制度の側面から子どもたちの成長発達を考える必要が生じているように思います。

清水 政府の教育再生実行会議でも、いま小中一貫を視野に入れて、その中の区切りをどうするかが議論されていますが、私は義務教育の6・3という区切りは子どもたちの成長発達にあっていないし、そのためにさまざまな問題が生じているということを考えると、早急に設計しなおさなければならないと思っています。

そしてもう一つ、教育再生実行会議では幼児教育の5歳からの義務化という案も検討されていますが、そうなりますと今度は、幼児教育と小学校教育をどうつなげていくかということが大きな課題になってくるだろうと思います。

これまでは幼保一元化とか幼保の一体的運営あるいは幼小連携といった議論がなされてきましたが、これからはむしろ幼小接続といった観点からしっかりした制度設計が求められます。小1プロブレムの解決の糸口もそこにあると考えています。

6・3の区切りをどう変えていったらいいか

藤田 現在の義務教育の6・3の区切りについては、お二人とも変えた方がいいというご意見ですが、では、どのように変えていくのが望ましいのでしょうか。

庄司 つくば市では昨年から小中一貫教育の試行をはじめ、4・3・3・2という「つくばスタイル科」を提案していますが、私たちはこのつくば市と4年前から連携して市内の学校を対象に小・中のつなぎのあり方や子どもたちの発達変化についての調査をしています。

教育心理学では昔から9歳10歳のところに壁があるといわれてきましたが、私たちの調査でも、子どもたちの運動能力や人間関係、あるいは国語や算数などの教科の側面でも9歳10歳あたりに、成長発達の変化が現れておりますので、この調査結果から判断しても、この年齢のあたりに学校段階の区切りを置くことが適切なのではないかと見ています。

藤田 ということは、最初の区切りは6歳から3年間あるいは4年間ぐらいのスパンが一つの区切りになるとみているのですね。

清水 この3月に私どもが開催したシンポジウムでも、認知心理学では「9歳の壁」(第3次認知革命)という言葉が紹介され、認知機能はその年齢までに身につけておかないと生涯にわたって影響するという話がありました。が、義務教育の区切りを考える時には、そういう学問の知見を活かしていくことが大切です。

そして、どの段階で区切るかということについても、全国一律に定めるのではなく、それぞれの地域の特性に合わせて工夫するというのがあっていいのではないのでしょうか。

これはアメリカのミズーリ州のある学区の例ですが、子どもたちの問題行動に対応するために、初等・中等教育の区切りを5・2・2・3という制度実験を行ったケースもあります。わが国でも、それぞれの地域や学校の事情や特性に合わせて、柔軟に対応ができるような制度設計が必要ではないでしょうか。

私は「5・3・4・4」に変えることを提案しています

清水 私は、さきに述べたように、高等学校を義務教育と高等教育を結ぶ学校と位置づけたいと考えていますが、高校教育は4年がいいと考えています。高等教育の側から見たら、4年の方が大学への準備教育の期間

としては望ましいし、生徒にとっても成長期の4年間を同じ学校で過ごすということは意味があることだと思います。

そうしますと残りは8年です。私はこの8年は、5・3がいいと思う。それで、現在の6・3・3・4の制度を5・3・4・4に組み替えることを提案しているのです。

もちろん、4・4・4・4という案も考えられますが、先行するアメリカでは、建国以来、8・4から始まって、6・2・4・4や6・3・3・4へと、いろいろな試みを経て、現在では5・3・4・4が主流になっていきますので、その意味でも、このあたりが望ましい区切りかなと考えています。

学校の区切りは子どもの成長発達に合わせた

庄司 少し話に戻るかもしれませんが、先ほど清水先生から、アーティキュレーションの考え方、つまり「区切つてつなぐ」ということの大切さを学びましたが、私の経験でも小学校から中学校に行く時に子ども自身も中学生になるんだという意識をもって中学生になる、そして中学生らしさを身につけようと頑張る、成長する姿を見てきました。つまり区切りがないということは、そういう子どもたちの成長発達の機会を失うことであり、区切りがあるということは子どもたちにとって望ましい面もあると思います。

そうしますと、どこで区切つたらいいかということになります。が、こどもたちの成長発達の過程のとりえ方は心理学者にとってもさまざまであり、なかなか一律にはいきません。

最初の区切りについては、私たちの調査からも10歳頃、就学後4年頃が適切ではないかと推定できるので、その後の区切りについては判断が難しい。

清水 アメリカでミドルスクールができたのは、思春期が1〜2年早くなってきたという、医学や心理学の知

見が一番のきっかけになりました。思春期が小学校の5・6年から始まって中学校の2年くらいまで続くときに、その思春期を一つの学校段階としてまとめたのがミドルスクールなのです。学校制度の区切りを考える時には、一つの成長発達段階を一つの学校段階にするという考え方も大事だと思います。

藤田 冒頭で、清水先生から改革の40年サイクルの話がありました。が、戦後スタートしたわが国の6・3・3・4の学校制度も70年近い年月の中で、さまざまな制度疲労を起こしていて、待ったなしの改革の時期に来ていること、そして、学校制度を改革していく時に大事なのはアーティキュレーションの考え方であることを学びました。

季刊誌『茗溪』では、この後も、「教育学者 清水一彦さん」と考える日本の教育」を連載し、「わが国が直面しているさまざまな教育課題に私たちはどう向き合っていくか」を考えてまいります。

そして、私はこの教育シリーズを通して自分の意見も出しながら進捗役として参加してまいりますのでどうぞよろしくお願いたします。



変革の時代に 船出する学生たち

この企画は、卒業・就職を控えた現役の学生が、全国各地、各分野で活躍されている同窓の先輩を訪ねて、就職活動の心構えや、変革の時代に船出する学生たちに、さまざまな助言をいただくものです。

今回、先輩を訪ねたのは、起業を志す筑波大学理工学部4年の葉山明寛さんと、就職を希望している筑波大学医学専門学群4年の岡田綾さんのお二人。

葉山さんは、ウェブサービスの会社を起業した森川亮さんを、岡田さんは東京都立目黒高等学校校長の高橋基之さんを訪ね、それぞれの進路に対して適切な助言と励ましの言葉をもらうことができました。

また、筑波大学就職課長の久保田優さんには、最近の様変わりする大学生の就職活動や筑波大学の学生に対する就職活動支援の実情などをレポートしてもらいました。



森川 亮さん、葉山明寛さん

森川 亮さんを訪ねて

森川 亮さん

平成元年 筑波大学情報学類卒
現在、株式会社LINE
代表取締役社長

「起業は自炊、就職は外食」

7月18日〜20日の3日間にわたって、起業をめざす筑波大学生のためのサマーキャンプ「つくばクリエイティブキャンプ」が開かれました。

このサマーキャンプで、森川さんは「起業は自炊で、就職は外食です。起業することに気負うことはないのです。現実を客観視すれば、必要以上にリスクを恐れることはありません。」と話してくれました。

私は、この言葉に勇気づけられ、森川さんの起業に対する考え方をもちと知りたいたいと思い、森川さんを訪ねることにしたのです。

現在の日本を代表する企業の1つであるLINE社のトップの方とお話をさせていただき、改めて自身の価値観を新たにし、視座を高く持つことが出来ました。大学を卒業後、企業に就職し、終身雇用でサラリーマンとして一生懸命に働くという日本において一般的だったモデルは世の中の変化、技術の進歩に合わせて変わることを余儀なくされています。少子高齢化をはじめ、これからの日本は多くの課題が山積みであると言われていますが、やはりそのような未来を考慮してなのか多くの学生は「安定志向」を持っていると報道されています。一人の大学生として同世代の皆がそのような不安を抱える気持ちは理解出来ます。しかし、そのような時代を迎えるから

こそ私たちは後ろ向きに考えるのではなく、積極的に攻めていく、チャレンジしていくべきなのではないでしょうか。ゆとり世代と揶揄されがちな世代ではありますが、バイタリテイを持って挑戦する人が一人でも多くと願っています。

その考え方の一つとして「会社に依存するか、自分に依存するか」というものがあります。仮に勤めている会社があつたのきつかけで倒産してしまつたとしても、明日からまた多くの企業から一緒に働いてみないかと声をかけてもらえる状況をつくりだせているのだろうか。

やはり「安定」は何か依存した上に構築されるものではなく、独立自尊の精神のもと、自ら構築すべきものであり、足腰がしっかりしたものにならねばならないかと思ひます。

「寄らば大樹の陰」でなく

日本を取り巻くマクロな環境要因が変化し、労働市場が縮小していくと予測されている以上「職は自分で作り出すもの」という認識が一人一人に根付くべきなのかもしれない。それは兎にも角にも起業すればいいというわけではなく、たとえ雇われている社内でも自ら世の中に変化を創り出す側に回れるかという意味だと考えています。

今回のインタビューを通して「つくばをシリコンバレーに」そのような合言葉のもとに始まつた興味深い試みの1期生として後に続く後輩のロールモデルになれるように事業に取り組むと決意を新たにしました。もちろん決して楽な道ではなく、むしろ坂道ばかりの辛い道ではあります。自分がかくわくする未来に思い切つて飛び込んでみる。そんな選択も面白いのではないのでしょうか。本気で取り組めば人生なんとかなるものだと楽観的に考えています。

筑波クリエイティブキャンパ

今回弊社を訪問してくれた葉山君とは、筑波大学と筑波大学を卒業した経営者の会「筑波みらいの会」とで主催した起業イベント「筑波クリエイティブキャンパ」で会いました。このイベントは元々起業家の多い母校筑波大学において起業を支援し日本のシリコンバレーにしようというコンセプトで始めたもので、記念すべき第一回の説明会に葉山君が参加していました。

最初彼は、漠然と起業したいと考えていたようでしたが、その場で独特の人間力で仲間を集め、そしてその方向性を留学生の就職支援と定める、更に短い間で起業プランをまとめあげ、イベント当日のピッチイベントに臨みました。その間、私が紹介した様々な企業の人事部を訪問し、意見を参考にしながら現実的な方向性を導くなど、学生らしからぬその行動力とリーダーシップには本当に驚かされました。残念ながら受賞には至らなかったですが、これをきっかけに彼の今後の起業に向けた熱い想いは更に高まったようで、起業に備え留学まで考えるようになったそうです。

今後の彼の活躍を楽しみにしていますし、また、来年から授業化される筑波クリエイティブキャンパも期待しています。

森川 亮

LINE社概要

LINE株式会社は、「LINE」「NAVER」「livedoor」のウェブサービスに関する事業を運営・提供しています。グローバルコミュニケーションアプリ「LINE」を機軸事業として、国内外でのサービス展開・プラットフォーム展開の加速化を推進、国内No.1キュレーションサービス「NAVERまとめ」において、既成のサービス概念にとらわれない革新的サービスの推進を図るとともに、「livedoor」では現在国内No.1のブログサービス事業をはじめ、ポータル・ニュース事業の更なる成長を目指しています。

高橋基之さんを訪ねて

高橋基之さん

昭和53年筑波大学自然学類卒業。
現在、東京都立目黒高校校長、
全国高等学校長協会会長。

教職をめざす私

私が高橋先生に初めてお会いしたのは、筑波大学で開催された模擬授業セミナーでした。「教育実習もまだだし、指導案も作ったことないし、授業なんてできないよ……」そんな不安がいつぱいで、そんな私に対して、高橋先生は「岡田さんのような保健の先生がいたら、楽しそうですね。」と笑顔で言葉をかけてくれました。そして、その言葉が、私が今日までがんばるための原動力となりました。

このようなご縁があり、「東京都の教員採用試験」を受けようと決意したとき、真つ先に高橋先生の顔が浮かび、目黒高校で開催される学習会に参加しようと思いました。

高橋先生に指導していただきたいと思ったのは、70分で1,000字を書きあげる小論文です。これから挑戦する小論文には、実際に東京都で働いている、現職の先生からの視点が欲しいと思いました。目黒高校での学習会に参加して、教員になるためには、その心構えとして高橋先生からお話をきき、その中で、どんな厳しい言葉も受け入れるぐらいの覚悟で、目黒高校を訪問させていたできました。実際の指導は、厳しいものではなく、終始和やかな雰囲気で行われました。また、内容は、驚きの連続でした。

具体的には小論文の中で大切にポイントが異なっていることに気づくことができました。私はそれまで、

テーマに対する取組に重きを置いて作成していました。例えば、「命の大切さ」がテーマであれば、自分の誕生を新聞の記事にする「命きらきら新聞」を作成する、などの取組を丁寧を書くように心がけていました。取組みにオリジナリティを出すことに全力を注いでいたのです。

しかし、先生からは「小論文は、序論が大切だよ。取組みは上手に書けているから、序論をもっと丁寧に書いてごらん。」とアドバイスをいただき、序論を軽く流していただけの私にとっては、目から鱗が落ちる!!思いでした。

また、目黒高校の教育目標についてのお話をうかがうこともできました。私は、養護教諭を目指すにあたって、保健室での活動ばかりに目がいつてしまっていて、学校全体の教育目標についての知識が浅いことを痛感しました。学校の方針をよく学んだ上で、保健室で何ができるのかを考えていこうと思います。教員採用試験の突破の仕方だけでなく、将来に繋がるお話を聞くことができ、とても考えさせられました。

そして、教員採用試験の本番では、先生から学んだことを思い出して、落ちついて小論文を書くことができました。一次選考を突破し、先日、二次選考を受けてきたところです。結果がでるのが10月なので、やきもきしていますが、ぜひ合格して、先生に素敵な報告をしたいと思っています。



岡田 綾さん

医学専門学群看護学類4年 岡田 綾記

様変わりする就職活動

就職活動時期の

後ろ倒しの影響——について

久保田 優（学生部就職課長）

「日本再興戦略（平成25年6月14日閣議決定）」に則した形で一般社団法人日本経済団体連合会が、就職・採用活動時期について変更し、平成25年9月13日付けで「採用に関する指針」が公表されました。その指針によれば、企業の採用に関する広報活動は、従前の「卒業・修了年度に入る直前の12月1日以降」であったものが、同「3月1日以降」に、また、選考活動においては、「卒業・修了年度の4月1日以降」であったものを同「8月1日以降」と後ろ倒しにすることでした。これにより大学は、様変わりする学生の就職活動に対応を迫られてきました。

従前の学生の就職活動は、一部、夏季休業期間のインターンシップに始まり、9月ごろからの自己分析、業界研究、企業研究を経て、12月1日からエントリーを開始します。その後は、次年4月―5月の連休明けに第一次ピークを迎え（およそ40～50％はこの時期で内定を確保する）、その後は、10月1日の内定式時期まで続き（およそ70～80％内定）、概ね就職活動は終了することになります。もちろん学生個人の差はありますが、非内定者に対して就職課やキャリアセンターは、ハローワーク等と協力しながら個人的なサポートを続け80～90％台の就職率を確保することになります。

この流れが学生のキャリア形成に影響するとして、日本再興戦略で、後ろ倒しを提唱し、学生の有意義な学びの場を確保するとしたものです。

しかし、現実はどうなのでしょう？ 就職活動の長期化の助長と無就職者（就職活動の先送り者を含む）を増加させる可能性があるかと大学は見ています。現実には、

ここに来て夏季休業におけるインターンシップが採用活動の一部と見える内容が増えていること、各就職情報提供会社が、この時期からインターンシップのための企業説明会を企画していること、各大学が業界研究として早めの企業説明会形式のガイダンスを行うなどと企業との接点を増加させており、就職活動が本来に後ろ倒しになっているのか定かではありません。

そして、経団連非加盟企業や外資系企業等、倫理憲章に拘束されない企業の採用時期については、就職情報提供会社が行うアンケートに「変わらず」と多くの企業が答えています。



久保田 優さん

この状況から学生は、早めの就職活動を余儀なくされております。そのうえ、広報活動のピークである3月～6月が、卒業・修了前の授業、研究と重複するため、就職を希望する学生はその両立に苦慮しながら、8月から始まる面接時期で短期間での内定取りに挑戦しなければならなくなります。

そのため、複数企業へのチャレンジや公務員採用試験との併願も厳しくなり、職業選択の自由も確保できなくなります。

その結果、内定が取れずに就活の先送りを余儀なくされる学生が多く出る可能性も予想されて来ます。

筑波大学キャリア支援室・就職課は、「一人でも『無就職者』で卒業させない。」という思いをもとに、従前の就

職活動ガイダンス時期を後ろ倒しすることなく、加えて就職活動時期について、しっかりとした状況を伝えるべくガイダンス内容の充実や個別面談の体制強化を図っています。

また、授業・研究指導への影響を踏まえ、教職員への情報共有についても、FDを開催するなど周知、対応を図ることとしています。今後は、茗溪会を含め卒業生との連携や協力を得ながら、本学学生の有意義な学生生活と進路決定のための支援活動を充実したいと考えております。

筑波大学と東京都立日黒高等学校との連携事業に関して

東京都立日黒高等学校長 高橋 基之

平成26年6月1日、筑波大学と東京都立日黒高等学校は、両校が包括的な連携のもとで、連携事業を運営することにより、相互の発展と人間の育成に寄与することを目的とした協定を筑波大学清水副学長と私、日黒高等学校長名で締結しました。それにより、大学におけるキャリア教育と高校教育の連携教育を促進するなど、相互の教育の特性を生かした教育活動の展開を目指しています。

その事業の内容については、1. 学習活動に関すること、2. キャリア教育および進路指導に関すること、3. 課外活動に関することなど、具体的には、筑波大学の教員を目指す学生に対して、学習会を企画・実施したり、授業のある土曜日の午後に行う日黒高等学校での土曜講習の学生講師として生徒の指導に実際に関わったり、また、筑波大学の教職員の協力を得て、高校一年生に対する大学模擬授業や高校二年生に対する学部学科説明会を目黒高等学校で実施しています。

これにより、本校、目黒高等学校において、6月22日と7月28日に、筑波大学の教員を目指す学生に対する学習会を、本校副校長や近隣の同窓校長を招いて実施しました。

平成26年

「追悼のつどい」

今年度から筑波で開催

「追悼の集い」は、これまで東京・大塚の茗溪会館で開催してきましたが、今年は会場を筑波大学の学生会館内の特別会議室に移して、平成26年9月13日(土)に開催しました。昨年から本年夏までに、ご逝去された遺族の方々

に連絡いたしましたところ、15家族、21名の参列をいただきました。本会からも理事多数が参列しました。遺影のみの参加の25名を加えて40名の遺影が飾られた会場で午前11時半に開式され、参列者一同が遺影に黙禱後、江田昌佑理事長が「追悼の辞」を述べられ、続いて、挨拶をされました。また、来賓として筑波大学学長代理として出席された東照夫副学長が挨拶をされました。その後、一同が献花し、式は終了しました。12時半からは会場を移して「懇談会」が開催されました。江田理事長の挨拶のあと懇談の席がもたれ、4人の遺族の方々からスピーチをいただきました。ここに、その一部を紹介いたします。

故・小池 保雄様(昭和31教大体系卒) ご長男 小池達郎様



父はサッカー一筋の人で、大学卒業後、国体が予定されていた大分県に教員として就任しました。大分県の国体優勝に貢献した後は、

出身の千葉県に戻る予定でしたが、家庭訪問した生徒の姉に一目惚れして結婚し、勤務先も高校から大分大学に

転勤しました。

大学の宿舎に住んでいましたが、サッカー部の学生を招いては、母の手料理でもてなしていました。

昨年7月に亡くなりましたが、葬儀には多くのOBが参列して下さい、送別試合まで開いて下さいました。

私は野球少年で、中学・高校で野球部への入部を希望したのですが、父は認めてくれませんでした。父は勉強にも生活面にも厳しい人だったので、私が野球にのめり込んで、勉強がおろそかになるのを心配してくれたのだと思います。自分も現在大分県庁でがんばっています。

故・高橋 伸夫様(昭和42院修地卒) ご長男 高橋 純様



父は人文地理学とフランスとサッカーが大好きな人でした。東京教育大学と同大学院修士課程でフランスの地方都市について研究し、仕事人間で休日

63歳まで筑波大学教授を勤めていました。

日も大学で研究に明け暮れていました。フランス語は教会に通ってフランス語を学び、フランスに留学をして、パリの大学院で博士課程を学びました。

その後も毎年フランスには出かけていました。父は現在の筑波大学付属高校に在学中に国体の東京都代表のサッカー選手として出場したほどサッカーが得意で、父とサッカーボールを蹴った思い出があります。

晩年はパーキンソン病を患い、思うように話が出来ませんでした。本日は父の良い供養になりました。

故・堀江 澄男様(昭和23理四卒) ご長男 堀江眞澄様

父は昨年10月13日に地区の運動会で挨拶して帰り、お赤飯を食べ日本酒を飲んで、お風呂に入り、立ち上がりうとした瞬間に倒れ、そのまま亡くなりました。



大正14年10月17日生まれでしたから、あと4日で米寿でした。父は農業学校から高師に進学し、寮長を勤めていた昭和20年5月の空襲で高師の建物が全焼したのに出会ったそうです。卒業後は神奈川県庁に勤めた後、高校の生物の先生になりました。

厚木市の中学校で教員をしている私は長く父と一緒に暮らしていました。

お酒が大好きで、十数人が我が家に集り、お酒を飲んで最後は必ず「宣揚歌」を歌っていました。

父は好奇心が強い人でした。例えば、アイパットを活用して、そこに載っているレシピから自分で料理をつくるような人でした。

故・徳川 宗子様(昭和10文部省 図書館講習所卒) ご長男 徳川文武様



母は皇族や徳川家・大名家の子弟がほとんど学習院に進学する時代に、祖父からの「これからの女性性、手に職を付けなければいけない」という考えに従って、図書館の職員の資格がとれる講習所に進学したと聞いています。父と結婚後は、文京区の西片に住んでいました。

会費完納会員の皆さまへ

平成26年 9 月30日

一般社団法人 茗 溪 会

理事長 江 田 昌 佑

平成26年度『茗溪フェロー』 ご協力をお願い

茗溪会が新法人としてさらに発展・進化していくために、東京教育大学等前身諸学校から筑波大学にわたる多様な世代を結び、教育界だけでなく広く実業界に活躍する卒業生との地域・職域をこえた連携を強化することを目的として、「茗溪会拡充キャンペーン」を推進し、その一つとして会費完納会員を対象として「茗溪フェロー」を創設いたしましたところ、昨年は1,300人を超え、合計約600万円のご協力をいただきました。誠にありがとうございました。

今年度も9月末日現在P15のように皆様からご協力いただいております。

完納会員の皆さまには、35年間にわたり茗溪会へのご支援をいただき、これまで本会を支えていただきましたことは、誠に感謝に堪えません。

茗溪会は筑波大学や在学生、さらに新しい卒業生に一層の支援をすることは勿論ですが、本会の老・壮・青の力を集めて大きく発展することを期しています。そのためにも、皆さまには本年度もご協力をお願い申し上げる次第でございます。

「茗溪フェロー」の募集要項

既に会費を完納した会員の皆さまに呼びかけて「茗溪フェロー」として皆さまからの寄付を仰ぎ、今後の茗溪会の運営に寄与していただくことを目的といたします。

- 1 寄付金 1口 2,000円／年間
- 2 支払い方法 口数の選択 1口以上
同封の払込取扱票に所定事項をご記入の上、
郵便局窓口またはATMから送金してください。
会員番号は必ず記入してください。
(お送りした封筒の宛名に記載してある8桁の番号)
- 3 季刊誌『茗溪』誌上にお名前を掲載いたします。
- 4 納入口数に応じて礼状及び記念品を贈呈する準備を現在進めております。

季刊誌『茗溪』正月号に 誌上名刺交換掲載ご協力のお願い

茗溪会では、季刊誌『茗溪』正月号(1080号)に、各地域・職域の会長・支部長・校長の皆さまに「年賀名刺交換」をお願いしたところ、79件のご応募をいただき、掲載いたしました。次号(1084号)に「年賀名刺交換」の名刺交換を会員の皆さま全員をお願いして、掲載致したいと存じます。

下記の要項により、ふるって、ご応募下さいませよう、お願い致します。

記

◆掲載方法

季刊誌『茗溪』正月号(1084号)誌上

上段に「謹賀新年 平成27年 今年もよろしく
お願い致します」のタイトルを標記致します。

◆掲載対象

茗溪会等の理事・監事・代議員、各地域・職域の代表者(会長・支部長・校長等)をはじめ、会員の皆さまにお願いします。

◆掲載内容

支部等であれば、組織者・代表者名を、個人であればお名前・住所・連絡先(電話番号・メールアドレスなど)・職名・卒業年・卒業学科・学類などから、スペース(横=5.8cm、縦=3.1cm)に入る範囲でお願いします。

◆掲載文の連絡方法

FAX またはメール等で本部事務局宛にご連絡下さい。

◆掲載協力金

1件につき10,000円をご協力下さい。
協力金は本部事務局までご送金下さい。

◆原稿等の締切り

平成26年11月21日(金)

◆連絡先

〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23
茗溪会 事務局長 高野 力
TEL 03-3941-0136
FAX 03-3941-7674
E-mail info@meikei.or.jp

*印刷屋からゲラが出てまいりましたら、お送りして、確認していただきます。

2014年3月14日～9月30日 五十音順

今茨井猪稻稻稻糸伊伊伊伊伊伊糸市石石石石石石石池池池池飯飯飯飯安安安粟荒天天安安浅浅浅浅朝浅秋赤赤赤赤青青青青青阿会
井木口上野見留毛満東藤藤東藤藤村渡橋田田嶋崎川澤田田田田塚島島桑藤藏野木井野部部見原野野島岡井元姫羽司坂山柳島木木江津

努聖武孝清和土陽勛健信佳文忠久宏仙一和泰正讓靜依俊齊齊泰鳳
 子雄子州一三義美名一雄部司実次一司久夫雄治優修亨睦智貢澄復裕修修正生一高宏美義公誠正康融正新政収彦淳松孝俊通力
 子雄子州一三義美名一雄部司実次一司久夫雄治優修亨睦智貢澄復裕信二治雄郎明子尋己雄明宜一雄司雄良

翁島	恩田	折笠	小保	小畑	小野	小野	小野	落根	尾崎	尾崎	奧谷	奧口	奧田	奧山	岡本	岡本	尾崎	岡崎	大西	大塚	大谷	大関	大嶋	大下	大澤	大木	大川	大岡	大石	江本	海老	江野	上海	梅村	白田	上田	岩田	岩村	岩崎	岩倉	岩永	今村		
充和	真紀	常幸	幸禰	修禎	一雄	晃司	喬延	勇一	貞香	章雄	多作	正行	謙雄	繁正	保正	豐子	敬友	美史	要一	雄紗	悦久	悦三	勲三	弘專	良一	末司	都敏	豊起	久惠	英亮	謙明	秀利	俊郎	慶雄	英伸	耕敏	堯海	雅志	雅夫	房志	留明	靖美	利男	徹守

[illegible]

辛茂英明利誠正浩
男玄靖郎一司

源子香男義公昭

義博枝志

清太郎

條敏門男信日瑞昭

安信日瑞昭

和弘重章俊隆紀捷太

大壽輔

需孝道治末浩正

景晉行昌忠清英章小高達仲廣曉長一純

勝枝子裁夫次也一

重 重 重 塩 三 澤 里 佐 佐 佐 佐 佐 佐 佐 佐 笹 笹 櫻 桜 佐 相 坂 坂 坂 坂 齋 齋 齊 齊 近 近 近 戸 小 五 小 小 小 小 小 小 小 小 小 小 後 小 小 合 小 小 軍 桑 桑 黒 黒 黒
永 藤 田 原 條 田 見 藤 藤 藤 藤 藤 々 々 々 々 井 井 田 井 久 良 本 田 田 田 藤 藤 藤 藤 藤 藤 本 村 宮 味 味 松 松 俣 林 林 林 林 林 林 成 藤 島 坂 田 池 畔 司 原 原 木 川 川

忠 辰 親 統 和 賢 弘 佑 賢 徹 義 旨 良 功 木 木 木 木 弥 の 倭 直 健 寛 信 勇 八 ま 僚 寿 定 勉 良 昊 栄 文 義 要 正 熟 昭 茂 幸 仁 武 千 茂 早 浩 幸 恒 辰 悦 浩 生 東 真 洋 貞 淳 節 泰
興 治 志 平 男 昭 太 位 男 次 徹 敏 敏 生 お う 紀 幾 二 久 夫 千 ゆ た 女 吉 亨 造 雄 典 之 二 夫 美 嗣 一 一 洋 正 苗 行 男 顯 一 夫 之 夫 幸 子 子 子 治

武田 武居 瀧井 高田 森上 高松 高橋 高橋 高橋 高橋 高橋 鷹野 高野 高野 高梨 高大 岡堂 染谷 仙根 曾根 閑島 瀬尾 砂永 須藤 鈴木 鈴木 鈴木 鈴木 杉山 杉本 杉江 山下 清水 清坂 清水 島谷 洪谷 淡沢 柴谷 柴田 柴崎 篠澤

三惠子 高詢嶺 順子之 弘秀藏美 修英 信將弘 忠浩司 審也志夫 久潔夫 一定三子 誠康二郎 清純一郎 民雄 健治 宏幸 正洋 田明美 操昭三 優昌弘 文壽親 和祐一作全 英勇泰五 基重利智 三つ里 由孝之 嘉毅俊善 殺幸介 精喜一 達明美 仁恵子 敏子 卓也

中中中中中永長中中永永中中永永長長長中長仲鳥富戸時藤土照寺寺手手鶴角都土土津陳帖千田田玉田田田谷田田田田建館辰巽立竹竹武
山村村村村村峰野野谷田田田島澤澤坂坂坂川尾谷田野松堂井屋田尾塚島卷田筑屋屋出田佐村村村川田瀨沼川中中中中中中部野巳花宮松富
部
茂民仲静昌六薰剛章元昭友英光正正邦昭晃富進映磨應茂良進常壽壽章昇勝豐喜典昌昌房謙寬重文宏信滋英陸彰正秀禮禪真孝紀千隆隆隆杉敏
雄夫子生郎志紀男市雄廣好明彥雄夫子國紗親明吉幸夫子代之生一枝臣章平雄一樹英夫子三澄子久惠子人磨平惠

[illegible]

三	三	宮	宮	宮	宮	宮	湊	三	三	水	水	水	水	三	三	三	三	丸	真	松	松	松	松	松	間	增	增	真	前	前	前	堀	細	星	星	古	古	古	降	舟	二	布	藤	藤	藤	藤	福	福	福	福	福	福				
輪	好	本	原	嶋	下	崎	内	船	森	井	谷	城	口	垣	島	沢	浦	山	岡	仁	田	松	松	松	松	松	間	瀬	原	砂	田	島	川	間	矢	野	屋	沢	内	旗	崎	施	原	善	本	谷	川	江	本	本	原	田	田			
辰	俊	良	孝	孝	憲	子	完	新	邦	八	清	四	義	忠	光	次	義	敬	佳	晃	田	茂	英	健	芳	繁	勝	義	光	裕	嘉	富	智	一	德	和	優	敏	健	一	貞	勝	和	洋	牧	一	尚	愛	秀	剛	学	修	昇	祐	正	博
郎	文	一	雄	也	子	吾	次	子	重	司	郎	明	明	世	郎	づ	一	志	奈	市	雄	茂	英	健	芳	繁	勝	義	光	裕	嘉	富	智	一	德	和	優	敏	健	一	貞	勝	和	洋	牧	一	尚	愛	秀	剛	学	修	昇	祐	正	博

渡渡渡渡渡渡和若從米吉吉吉吉古橫橫橫結山山山山山山山山山山山柳柳安安矢守森守森森盛望毛室村村村村村村宗武
辺辺辺邊辺辺部田野川野田岡井山田井本城本本本本村野西田田田崎崎崎崎岸沢 中武田口山屋屋本平 月利岡山松田田田田田村藤

部 井

功建造浩寿渡聡芳 明一哲俊健隆宏幸昭悦宣勝明章勝芳平 哲誠庸將進保勇光健徳徳和斉幸恭四泰正尚義礼悅俊正亮和昌敏敏幹良茂照孝
以 光夫之夫 雄博宏充司純一二三彦秀政夫 雄見夫 雅郎 夫之 男 蔵 治明夫 雄一郎大彦 裕子男男 太彦史雄和雄大樹 行典

郎 美 郎

著書紹介

霞も匂ふ夕陽丘——翠溪・前田純孝論考集成

著者 佐藤隆一（昭26文二、27研）
発行 前田純孝の会（諸寄基幹集落センター）

内 前田純孝資料室
〒六六九―六七五三
連絡先

兵庫県美方郡新温泉町諸寄七三九―
B5サイズ、全826頁、上製本。
本の大きさ
(頒布価 四、八〇〇円)

本誌にも三度にわたって記述した（936号「明星派の俊秀 前田純孝先生のこと」、1004号「前田純孝と会誌『教育』―薄幸の同窓歌人を支えた校友たち―」、1036・1037号「上田敏と前田純孝―高師時代の柳村先生と歌壇の俊秀―」茗溪の先人前田純孝について、二十年に及ぶ短大紀要等に掲載の論考を集成・整合して、写真・年譜・索引を付した。

純孝は明治13年、但馬に生まれ、御影師範から東京高師に学ぶが、翠溪と号し、浪漫主義詩歌最盛時の『明星』『白百合』に活躍、大塚音楽会等でも天賦の楽才を発揮する。そして、明治39年、卒業と同時に、新設の大阪府立島之内高女（現夕陽丘高校）の初代教頭として赴任するが、学校経営の激務に倒れて帰郷、人間苦の極限とも言うべき病詠を残して、31歳で早世する。

本書は、純孝の生涯を、師範時代・高師時代・教員時代・晩年の病臥時代と四区分し、教員純孝の横顔にもスポットを当てた点が特色と言えよう。

著書紹介の掲載について

季刊誌「茗溪」には、茗溪会員の皆さまの著書を紹介しております。先輩・後輩・友人などの著書を、25字×18行程度の紹介文にして茗溪会事務局へ送ってください。

なお、書名、著者およびご本人の卒業年度、学部・学科へ学群・学類へ、本の大きさ、ページ数、価格、発行所等を付記して下さい。

アメリカと台湾に海外拠点

この2つの大学

は、学外に本学のキャンパスを創出し、学内に海外組織のキャンパスを創成する「キャンパス・イン・キャンパス」構想の実現に向けて、科目グループボックスモデル構築を協働で進める主要大学です。



台湾オフィス開所式の様子

筑波大学・AIST連携協定調印式および「国際スポーツアカデミー」シンポジウムを開催

7月26日に、「筑波大学・AISTS連携協定調印式」と、国際スポーツ界をリードする人材の養成を目指して2015年10月に開設する博士前期課程プログラム「つくば国際スポーツアカデミー」についてのシンポジウムを開催しました。2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて文部科学省が実施する「スポーツ・アカデミー形成支援事業」を、本学が受託したことに関連して開催したものです。

シンポジウムでは、アカデミー長に就任する真田久教授（体育系）からの概要説明やイアン・ヘンリー（英国・



全国高校総合文化祭 新聞部門を開催

第38回全国高校総合文化祭（いばらき総文）において
本学大学会館が新聞部門の会場となり、会館内には参加
各校の校内新聞などが展示されました。

また、新聞部門に参加した全国125校計279人の生徒は、



筑波大学・AISTS連携協定調印式の様子



永田恭介学長とジャン・アン
ダー・マンソンAISTS会長

ラフバラ大学教授の2012年ロンドンオリンピックレガシーをテーマにした基調講演などが行われました。

「未来を創る科学技術人材育成プログラム」
筑波大学 GFEET」スタート

6コースに分かれて本学や近隣の研究機関、企業などを取材し、「交流新聞」を作成しました。

「筑波大学を巡るコース」に参加した高校生たちは、プラズマ研究センターや計算科学研究センターを見学したほか、キャンパス内の留学生に声を掛けるなど、積極的な取材活動を繰り返していました。

本学は平成26年度の「グローバルサイエンスキャンパス」に採択され、「未来を創る科学技術人材育成プログラム」・筑波大学GFETMST[®]」をスタートさせました。

グローバルサイエンスキャンパスとは、「将来グローバルに活躍しうる傑出した科学技術人材を育成すること」を目的とした独立行政法人科学技術振興機構（JST）の事業です。採択された大学はそれぞれ卓越した意欲・能力を有する高校生等を募集・選抜し、国際的な活動を含む高度で体系的な、理数教育プログラムの開発・実施していくこととなります。

筑波大学 G F E S T では受講生それぞれの目的と資質に合わせた2つのコース（S S コース・科学トップブリーディングコース）を用意しています。

（詳細については筑波大学 G F E S T のサイトをご参照ください。 <http://gfest-tsukuba.ac.jp/>）



本学では、GFEST以前からスーパーサイエンスリーグ(SSリーグ)で優れた自主研究を行っている小・中・高生を支援してきた。上の写真はSSリーグ生が「つくば科学研究コンテスト」で研究発表している様子(2012.3.)

筑波大学スポーツアソシエーション (TSA) の紹介

わたしたちは、筑波大学を中心に
トップアスリート育成・広報・社会貢献に
取り組む**全国初の大学組織**です。

筑波大学では、トップアスリートやチームの育成および全学的なスポーツ振興を支援するため、2010年4月、「筑波大学スポーツアソシエーション」(TSA) を設立しました。

TSAでは、筑波大学のトップスポーツの資源を生かし、スポーツを中心に、関連する教育研究分野の活性化を図ります。

また大学と地域との一体感の醸成をめざし、スポーツを通じて多角的なイベント等を企画していきます。

〈TSAが主に取り組む施策〉

運動部強化事業

- ・運動部へのコーチ派遣
運動部強化および指導者育成のために各運動部に対し、本学の大学院生を中心としたコーチ派遣事業を実施しています。

- ・コーチフォーラムの開催
監督・コーチ・OBや外部指導者によるコーチフォーラムを開催しコーチや指導者間の情報共有を図ります。



コーチフォーラムの様子



各運動部のユニフォームカラー統一の記者会見の様子

アスリートサポート事業

- ・トレーナーの認定

TSAでは、筑波大学の運動部をサポートするトレーナーの認定制度を設置し、TSAトレーナー志望者の知識・技術・意欲等を評価基準として定期的に認定レベルのランクアップテストを実施しています。

- ・トレーナーの養成・育成

TSAトレーナー向け必須受講セミナーを年2回実施しています。トレーナーとして豊富な経験を積んだ講師陣を幅広い分野から招き、実践的な講義と実技によりスキルアップを継続的にサポートしています。

- ・トレーナーの派遣

選手のパフォーマンス向上のため、各運動部に所属するTSAトレーナーの派遣を促進しています。

また外部からのスポーツ大会におけるトレーナー派遣要請にも積極的に応じています。

情報発信広報事業

- ・Web・紙媒体や展示会等による広報活動

社会貢献事業

- ・近隣自治体と連携したスポーツ関連事業の実施



学園祭での展示会



スポーツ教室の様子



地域のスポーツイベントへのトレーナー派遣

箱根駅伝復活プロジェクト

- ・筑波大学では、箱根駅伝が原点として掲げている「粘り強さと創意工夫に富む学生」の育成を目的として2011年から「箱根駅伝復活プロジェクト」を立ち上げました。

筑波大学の知と技を活かしながら日本を代表するトップアスリートを輩出することに限らず、社会の様々な分野で創造的に活躍できるリーダーを育成し本学の教育研究の更なる活性化と日本社会への積極的な貢献を目指します。



箱根駅伝予選会

筑波大学スポーツサポーターについて

- ・TSAでは、個人、法人・団体様から寄附金の受付を行い、財源の確保に努めています。
いただいたご寄附につきましては、貴重な財源として、TSAの活動に活用させていただきます。
ご支援いただいた方には、筑波大学スポーツサポーターとして筑波大学のスポーツに関する情報提供、イベント案内やスポーツグッズのプレゼント等のサービスをさせていただきます。



- ・TSAホームページのご案内
TSAの活動情報は、左記URLよりホームページをご覧ください。

<http://www.sports.tsukuba.ac.jp/association/>



岳東寮（昭和45年、新研究所）

『岳東寮』（山中共同研究所）で “畏敬の念”に ふれる体感を！

「さかさ富士」のある風景

「さかさ富士」とは、その名のとおりに、水面にさかさに映った富士山の風景を表す雅称です。

富士山は、ほぼ左右対称です。「さかさ富士」は、上下対象となります。したがって「さかさ富士」は上下左右2本の対称軸を持つ風景です。

この度、富士山は「世界文化遺産」としてユネスコに登録されました。

ここで注目されることは、富士山が「自然遺産」としてではなく、「文化遺産」として登録されたという事実です。

それは、単に「富士山」が、富士山という一つの「山」としてではなく、「富士五湖」や「美保の松原」の、富士山を望む景勝地の範囲を含めた全体を「霊峰富士」という概念から世界文化遺産に指定、登録されたという向きがあります。

因に、日本の浮世絵に見られる風景や人物画に魅せられたゴッホやモネたちの近代絵画の先駆けたちは、ジャポニズムという画風で知られました。

これらの画家たちの作品群の持つ美意識に啓発された世界の人びとの、日本や日本人への期待に応えるためには「世界遺産」としての保存方法やその実施状態が、世界から注視され問われることとなります。

軽装の安易な出で立ちや、登山者が持ち込んだ「ごみ」を、そのまま山中に捨てる等は、「登山者」としての一般的なマナーに反する行為と言えましょう。

一方で、人は太古の昔から対称的で幾何学的なものに何か超越的な感じを抱いていました。

実は、世界から問われているものは、「富士山」に関わる者たちの在りようと共に、富士山の持つ「超越的な」ものを畏敬する視点そのものではないでしょうか。

西洋の作家が、ジャポニズムを振りどころにした葛飾北斎は、河口湖の「さかさ富士」を、「富嶽三十六景」に描いています。

『岳東寮』は、畏敬の念にふれられる場所

山中湖畔にある『岳東寮』は、富嶽三十六景の中にあつて、ジャポニズムを体感できる場所にあります。

山中湖は、河口湖や本栖湖等と同様に、富士五湖の一つで、その中では最も面積が広く、6.8平方キロメートル。また湖面の標高も最も高く、981メートルで、全国的に見ても第3位です。水深は浅く、厳寒期は全面結氷、氷上のワカサギ釣りでも知られましたが、近年は全面結氷することは稀のようです。

昭和の前半までは、スケートのメッカだったようで、特に「岳東寮」（本学共同研究所）に面する平野地区一帯は良質の水が張ったということです。

山中湖畔は、温泉施設や美術館等の施設もあり夏は平均気温が20度前後と四季を通じて楽しめる場所です。

また、「共同研究所」の名の示す通り、関東甲信越地区の国公立大学の、主に、学生や教職員が利用する施設として建設された施設ですが、管理運営は筑波大学が行っており、いまでは同窓生やその関係者にも利用が広がっております。

嘉納治五郎校長時代、大正14年10月に、地元から無償で寄付された富嶽を望む景勝の1万5千坪の地に、同年12月までに約40坪の寄宿舎を建設し、翌年1月下旬には湖上スピード大会を開催し、東京高等師範学校の学生60名がこの施設を利用しました。

その際に、この施設は「岳東寮」と名付けられました。この土地は、富士山麓の溶岩によって形作られた土地のために、ラグビーの合宿・研修等をするためには、グランド整備に大変な苦勞をしたようです。

現・茗溪会の江田昌佑理事長は、ラグビー合宿の夏合宿に20年以上も常連として愛好され、グランド整備に学生たちと汗を流されたとのこと。

この一文は、平成22年当時、筑波大学副学長をしておられた西川 潔氏が、つくばスチューデントに掲載された内容を、ご本人の了解を得て参考にししました。

※江田昌佑さんが語る 思い出のかずかず

戦後間もなくの頃——知人の「帝国ホテル」のкокクをしていた人を帯同してラグビーの合宿をしました。そのねらいは、彼が持参する大蒸気（だいいじょうき）での炊飯でないと満足には炊けません。1,000メートル近い標高では気圧が低く、多人数の炊飯は難しかったです。

昭和30年代の建屋は——主に3戸点在していました。母屋は茅葺きの上にトタンで覆った建物、ほかの2戸は茅葺きの民家風の建物でした。

その後、3回程の配置替えや建て替えなどがあって、現在の研修施設になっています。

その当時の風物詩といえば——地元ひらのの平野の入江から櫓を漕いで和船を操っての風情は懐かしいものでした。また、昼の休息時には、決まって平野集落の人が、大福餅と玉蜀黍を売りに来たものでした。

グラウンド整備にジープを駆使して——毎年、協力してくれた地元の有力者はいまでも健在で、平野地区に在る菊水旅館の創設者でもあります。実は、この方は、岳東寮の現在の支配人・高村さんのお父上で、親子2代で岳東寮に関わることは、何か深いご縁を感じます。

ある時は陸上自衛隊の——ラグビーチームと合同合宿を張り、部隊のブルトーザーでグラウンドの整備をしてもらったりもしました。

昭和の初め頃からの岳東寮を——利用した関係者は、幾千、幾万を数え、その人たちにとっては、その時折りの様子が懐かしく思い出されることでしょう。

同時に、この度、富士山が「世界文化遺産」に登録されたということは、その人たちにとっても、我がことのように嬉しく思っているのではないのでしょうか。

これからの利用者にとっても、思い出に残る地になって欲しいですね。

岳東寮案内

① 予約方法

筑波大学研究施設ホームページで空き室状況を確認し、次のいずれかの方法でご予約下さい。

予約フォーム：<http://www.tsukuba.ac.jp/campuslife/recreations.html>

電話：029-853-2250

窓口：学生部 学生生活課(学生支援)

② 使用料

宿泊料：一泊 2,000 円

食費：一人

朝食 500 円・昼食 700 円

夕食 900 円



関係者が協力して整備した手造りのグラウンド

アクセス (Access)

山中共同研修所 (関東甲信越地区国立大学共同利用施設)

〒401-0502 山梨県都留郡山中湖村平野479 / TEL.0555-62-0309

中央高速直通バス:新宿(平野行)→撫岳荘前下車→徒歩約7分

中央線:富士吉田駅下車→平野行バス 慶応山荘前下車→徒歩約5分



茗溪・東西南北

愛知支部総会

講演「次世代につなぐ
生殖細胞の不思議」



小林 悟 教授

7月12日(土)午後4時から名古屋市のルブラ王山にて、筑波大学出身で基礎生物学研究所の小林悟教授を講師として、支部主催講演会を開催しました。「次世代につなぐ生殖細胞の不思議」を演題として、研究者を目指した動機やこれまでの研究の概要についてお話していただきました。小林教授は、小学生の時、「幾何に王道なし」という言葉に感銘を受け、他の人がやらないことをやろうと考えて研究をされてこられました。シヨウジョウバエを用いて生殖細胞の研究を行っており、現在まで取り組んできた3つの研究テーマについて、分かりやすく説明していただきました。非常に地道な作業の積み重ねと新たな問題を発見する発想力で歩んでこられたことが強く印象に残り、まさに「学問に王道なし」ということを教えていただいたと感じました。



愛知支部の懇親会

三好康郎副学長から「筑波大学の未来構想」

講演会に続いて、午後5時から支部総会を行いました。鳥山支部長の挨拶に続いて、本部の西川潔副理事長から江田昌佑理事長のメッセージも含めて御挨拶をいただきました。次に筑波大学の三好康郎副学長から筑波大学の現状や未来構想などについて説明をしていただきました。「地球を活躍の場に」という目標を掲げ、国際的な研究拠点として発展していることなどがよく分かりました。

総会の後、講師の小林教授や、西川副理事長、三副学長にも出席していただいて、懇親会を行いました。今年度も約100名の会員が参加して懇親会を深めることができ、非常に盛況でありました。(支部事務局 羽佐田透二)

奈良茗溪会の総会

山口香さんが講演「コーチングの力」

奈良茗溪会では毎年7月第1土曜日(本年度は講演会の都合で6月22日開催)に総会を開催しています。近年は、教員だけでなく企業人の方々にもご参加いただいております。また、本年度は本会会員に加えて、大阪、京都、兵庫各茗溪会から役員の方々にご参加いただきました。会の活性化を図るための様々な情報交換を行い、これからの交流を深めていくことで意見が一致、盛会となりました。

今年で5年目となる講演会には、ソウルオリンピック女子柔道銅メダリスト山口香筑波大学准教授をお招きし、「コーチングの力」という演題で講演いただきました。講演会では嘉納治五郎氏の「柔道を通じた人間教育」の教えを取り上げながら、社会で活かされる人間を育てることについて熱き思いをお話し



山口 香 准教授

いただきました。また、「コーチングの前提」「コーチングのスキル」などについて自己の経験も入れながら詳しく解説され、コーチの役割は「力を引き出してやること」「頑張れば進歩する」ことを経験させてあげること」であることを教えていただきました。

今後、近隣茗溪会と交流を深めながら支部活動の充実に取り組んで参りますので、多くの会員の皆様の参加をお待ちしております。(幹事長 井上徳之)

40周年記念で新曲を公演

筑波大学混声合唱団OBOG会

筑波大学混声合唱団は、本年40周年を迎えます。団では10年ごとにイベントを行ってまいりました。

40周年では記念としてOBOG会より新曲を委嘱し、現役の有志とともに初演いたします。演奏会は東京で行います。みなさまお誘いあわせの上、ふるってお越しください。初演後は楽譜の出版構想もあります。

筑波大学混声合唱団第39回定期演奏会

2014(平成26)年12月7日(日)

14:00開演予定 浅草公会堂(TX浅草駅ほか)

全席自由・前売り400円、当日500円

曲目(全5ステージ)

・混声合唱組曲「ひとつの時代」

(全3曲 委嘱初演)

林 望…詞、なかにしあかね…曲

指揮…高橋基之(S53自然卒)

ピアノ…なかにしあかね

・混声合唱組曲「水のいのち」

高野喜久雄…詞、高田三郎…曲

指揮…鈴木茂明(常任指揮者)

ピアノ…池田悦子

・ブラームス混声合唱曲集より

Brahms…曲、指揮…鈴木茂明

・混声合唱とピアノのための組曲「夢の意味」

林 望…詞、上田真樹…曲 ほか

第2回東京都茗溪会へのお誘い

開催日:平成26年11月16日(日)14時から
会場:筑波大学文京校舎および茗溪会館
講演:山海嘉之氏「ロボットスーツ HAL が創る未来」

平成26年度 茗 溪 会 支 部 等 組 織 表

	代 表 者 (卒年科)	事 務 担 当 者
筑波大	森 嶋 厚 行 (11筑博工)	中 井 央 (10筑博工)
桐医会	山 口 高 史 (55筑医)	
附属校	小 山 浩 (54筑体)	日下部 公 昭 (52教大東史)
図情橘会	森 茜 (40図短特養課)	寺 沢 白 雄 (63図大図情修) 大 場 高 志 (51図短特養課) 茂出木 理 子 (60図大図情)
北海道	沖 野 隼 夫 (41教大体)	山 本 伸 弘 (54筑修体) 鷗 野 和 憲 (07筑体)
青森	田 代 高 之 (52教大武)	前 田 済 (59筑一自) 工 藤 誠 司 (09筑体)
岩手	栗 林 徹 (57筑修体)	清 水 茂 幸 (62筑修体) 上 濱 龍 也 (01筑修体) 澤 村 省 逸 (62筑体)
宮城	蘇 武 徳 行 (51教大武)	井 上 雅 勝 (53筑体) 佐々木 洋 (59筑修環)
秋田	船 本 賢 咲 (49教大武)	小 林 大 輔 (15筑博数 4 修)
山形	津 田 浩 (58筑一自)	仁 藤 誠 (02筑体) 羽 角 哲 弘 (05筑体) 芦 野 浩 二 (07筑一自)
福島	鈴 木 弘 文 (46教大米)	伊 藤 淳 一 (09筑修教) 渡 邊 兼 綱 (14筑修教) 渡 邊 幹 男 (17筑修教)
茨城	郡 司 丈 児 (53筑一人文)	木 城 知 則 (13筑博歴) 川久保 典 昭 (12筑修教)
栃木	上 岡 利 夫 (53筑一自)	齋 藤 宏 夫 (58筑修教) 青 木 伸 子 (02筑一自) 宮 澤 昭 二 (02筑一自)
群馬	佐 藤 功 (55筑一自)	紋 谷 清 美 (62筑修教) 田 島 正 徳 (63筑体) 仲 谷 佳 郎 (62筑修教)
埼玉	荒 井 修 二 (25理三)	平 野 正 美 (54筑二比) 河原塚 努 (54筑二比) 薬師寺 将 二 (10筑修教)
千葉	秋 山 尚 功 (38教大東史)	西 川 和 樹 (59筑一自) 津 田 亘 彦 (63筑体) 村 田 孝 順 (22筑二生)
学芸大	藤 井 斉 亮 (61筑博教 3 修)	中 村 光 一 (01筑博教) 射手矢 岬 (06筑博体) 川 崎 誠 司 (08筑博教)
文科省	鈴 木 康 志 (56筑修教)	清 原 洋 一 (60筑博物中退) 三 橋 浩 志 (02筑修教) 水 谷 尚 人 (06筑修教)
都庁	鯨 岡 廣 隆 (57筑体)	出 張 吉 訓 (57筑二農) 堀 川 勝 史 (61筑体) 青 木 薫 (12筑体)
東京	高 橋 基 之 (53筑一自)	徳 田 安 伸 (55筑二農)

	代 表 者 (卒年科)	事 務 担 当 者
東 京	支部長・代議員 足 立 江 戸 川 大 田 葛 飾 北 江 東 品 川 洪 谷 新 宿 新 宿 墨 田 世 田 谷 台 東 中 央 中 野 練 馬 港 港 目 黒 北多摩北 北多摩南 西多摩 八 王 子 八 王 子 町 田	田 原 章 孝 (51教大応数) 奈 良 隆 (53筑体) 上 村 肇 (55筑一社会) 渡 邊 悟 (56筑二農) 村 松 広 英 (57筑一社会) 浦 部 利 明 (56筑一人文) 真 当 哲 博 (57筑二人間) 竹 村 恭 一 (56筑一自) 桜 井 裕 (49教大法政) 浅 井 一 郎 (55筑一人文) 大 井 俊 博 (53筑体) 徳 田 安 伸 (55筑二農) 柳 久美子 (50教大体) 中 村 穎 司 (35教大国) 池 田 浩 二 (57筑芸) 竹 内 秀 一 (51教大日史) 笹 のぶえ (56筑二比) 及 川 良 一 (52教大倫) 高 橋 基 之 (53筑一自) 柴 田 誠 (55筑一自) 初 見 豊 (52教大農) 小 林 三代次 (51教大英) 石 川 恵一郎 (49教大健) 小 島 和 雄 (36教大農) 久 保 淳 (56筑体)
	神奈川	清 水 進 一 (43教大数)
	山梨	赤 岡 正 毅 (53筑一自)
	長野	堀 金 達 郎 (52教大応数)
	新潟	永 井 成 一 (41教大法政)
	富山	川 腰 善 一 (56筑三社工)
	石川	久 下 恭 功 (49教大体)
	福井	南 部 則 雄 (53筑体)
	静岡	岩 城 明 (55筑一人文)
	愛知	鳥 山 勇 (48教大数)
岐 阜	丹 羽 章 (53教大農)	福 島 浩 一 (59筑一自) 中 村 謙 作 (62筑一自) 早 水 康 雄 (04筑院歴)
	滋賀	松 本 彰 (50教大体) 神 田 康 (15筑体) 近 岡 岳 則 (17筑二人間) 森 中 明 自 (57筑芸) 牧 田 誠 史 (59筑修教) 木 下 久仁雄 (55筑一人文) 丹 治 正 (56筑三社工) 山 田 芳 史 (56筑一自) 稲 葉 絵 美 (19筑一自) 村 松 利 之 (53筑体) 羽佐田 透 一 (01筑修教) 三 矢 勝 己 (59筑体) 居 波 裕 (60筑三惜) 岩 木 隆 義 (60筑一自) 松 林 基 之 (07筑体) 樋 上 弘 之 (06筑修体) 桂 本 尚 樹 (62筑体) 向 井 俊 哉 (57筑体) 廣 田 育 男 (04筑修教) 山 北 正 也 (03筑一人文)
三重	丹 羽 毅 (56筑一自)	川 合 英 之 (56筑体) 川 合 寛 明 (59筑体) 三 橋 利 彦 (58筑体)
京都	塩 見 均 (47教大数)	

	代 表 者 (卒年科)	事 務 担 当 者
大阪	松 本 秀 範 (53院修林)	笹 原 寿 峰 (56筑芸) 中 薮 久実子 (59筑芸) 大 橋 一 郎 (62筑体)
兵庫	溝 口 繁 美 (52教大教)	林 啓 太 (56筑体) 西 村 達 (01筑一人文) 千 脇 久美子 (03筑一自)
奈良	藤 善 尚 憲 (33教大教)	井 上 徳 之 (58筑一自) 岩 佐 泰 造 (13筑体) 栗 本 善 弘 (10筑体)
和歌山	土 肥 二 郎 (57筑一自)	川 口 勝 也 (01筑体) 岡 本 規 (05筑体) 梅 本 将 志 (12筑体)
鳥取	小 倉 健 一 (53筑体)	山 中 洋 介 (58筑体) 山 中 洋 介 (58筑体) 美多賀 孝 裕 (10筑体)
島根	松 本 弘 光 (46教大体)	境 英 俊 (59筑修体) 西 村 覚 (01筑修体)
岡山	長 尾 隆 史 (55筑体)	延 原 良 明 (57筑体) 田 中 宏 一 (07筑修体) 近 藤 真 妃 (06筑体)
広島	山 成 宣 彦 (40教大健)	大 辻 明 (47教大体) 山 下 勝 也 (58筑体) 井 藤 幹 治 (55筑体)
山口	鍋 井 邦 久 (38教大体)	兼 行 剛 士 (58筑修体) 内 田 忠 範 (57筑体) 藤 井 功 (57筑体)
徳島	安 永 潔 (55筑二農)	池 潤 茂 (58筑二比) 森 誠 一 (05筑修教) 田 北 直 樹 (05筑体)
香川	鶴 岡 英 作 (57筑二生)	渡 邊 浩 司 (03筑体)
愛媛	中 村 光 宏 (55筑体)	山 本 隆 祥 (07筑体) 八 木 俊 博 (57筑体) 森 川 大 和 (17筑二人間)
高知	下 坂 速 人 (53筑体)	手 林 慎 一 (10筑博農) 山 本 英 作 (07筑修地) 野 田 智 洋 (62筑体)
福岡	奥 山 訓 近 (53教大木工)	稲 富 勉 (61筑体) 島 居 奈緒美 (63筑体) 兒 島 悟 (07筑体)
佐賀	野 中 通 兼 (53筑体)	松 雪 誉 (61筑体) 井 上 伸 一 (01筑修体)
長崎	浦 下 悦 二 (50教大武)	山 口 千 樹 (60筑二生) 朝 長 芳 卓 (08筑博数 3)
熊本	蔵 田 勇 治 (52教大体)	寺 本 護 (08筑体) 米 田 拡 二 (08筑体) 上 田 晃 裕 (14筑体)
大分	渚 洋 行 (53筑体)	栗 林 正 一 (61筑体)
宮崎	城 倉 恒 雄 (44教大農経)	川井田 和 人 (53筑体) 児 玉 洋 一 (02筑三社工) 茅 島 隆 司 (13筑一社会)
鹿児島	篠 原 良 司 (52教大国)	鹿 倉 貢 (57筑体) 内 倉 昭 文 (59筑一人文) 寺 田 晋 紀 (12筑修教)

茗溪学園だより

新たなチャレンジ

グローバルコース、IBコース開設

グローバルリーダーの育成を急務として、国は世界中で高い評価を受けているIB (International Baccalaureate)、「国際バカロレア」デュプロマ (DP) 課程を日本の高校でも展開させるとする計画を発表しました。そして、カリキュラムの一部を日本語で履修できるようにプログラム開発を進め、国内における認定校を200校にまで増やしたいとします。

本校においては、創立以来「国際理解教育」としてさまざまな取り組みを行い、その先進性を自負してきました。IB教育のすばらしさについても開校当初より認識しており、IBDP課程での教育が行われているUWC (United World College) 校への留学を本校生徒たちに勧め、開校5年目の1983年最初の一人を送り出して以来、毎年複数の生徒が留学し、今年までの総数が53名に上っているほどです。

グローバル教育として日本の教育界でも強い関心が示



中学海外生クラスの授業の様子。
この日は交換留学生も授業に参加。

されるようになってきた状況のもと、本校における国際教育の展開も新たなチャレンジへと舵を切りました。そして、IB認定校となるための手続きを行いました。現在は「IB候補校」とな

り、IB事務局からの指導を受けながら、2017年スタートの計画で進めています。

また、高校1年からのIBコースに繋がるように、学部部にグローバル (G) コースを設けることとしました。これは、来年4月より始める計画で、この11月より募集活動を開始いたします。

中学 G コース

高校からのIBカリキュラム受講を視野に入れ、中学の3年間の英語授業 (週7時間) を特別クラスで受講するものです。

G1およびG2の二クラスを置き、7時間の授業のうち、6時間を外国人教師、1時間を日本人教師による文法の時間とする予定です。各クラスの生徒数は15名程度です。募集に当たっての英語力の目安は、G1は英検2級程度以上、G2は準2級〜3級程度としています。

本校では、海外の現地校やインター校出身の生徒による「海外生クラス」を設け、外国人教師による英語授業を行っておりましたが、これを発展的に解消させG1クラスとしました。加えて、英語力はまだG1レベルには達していないが、IBなどに繋がる高い英語力を目指す

生徒のためのG2コースとしました。本校における通常クラスの英語授業は、中学2年から習熟度別学習を行っています。進級時期に合わせてG1やG2へと進める機会を設けます。

高校 IBDP コース

IBDPとは、多文化に対する理解と尊敬を通じて、平和でよりよい世界の実現のために貢献する、探究心と豊かな知識を思いやりのある若者の育成を、全課程で実践する教育課程です。単なる英語で行われる学習課程ではなく、思考法や表現法、価値観の形成にまで影響を与えるプログラムです。

2017年4月に最初の入学生を迎えるべく準備を進めています。開設科目など詳細については、これから十分に検討して決めていきます。日本の高校卒業資格とIBDPの単位認定の両方を満たそうとしていますので、IBコースの生徒は相当ハードな学校生活になると思われます。

筑波大学をはじめDP成績を評価して入学させる大学が増えています。国内大学の受け入れ態勢も今後ますます充実していくものと思われます。

この夏の生徒達の活動・活躍を紹介します。

〈部活動〉

高校ラグビー部=第1回全国7人制ラグビー大会出場。結果プレート・トーナメント3位。

中学ラグビー部=第5回全国中学大会に4年連続4回目出場。結果5位。

中学バドミントン部男子=県大会優勝、関東大会2位 (関東大会決勝進出は初)、全国大会出場 (2回目)。結果ベスト8

インターハイ (全国高校総合体育大会) :

テニス部=男子団体と個人に出場。主将は、茨城県選手団の旗手となって入場行進した。

体操部男女=個人戦に出場。

全国総合文化祭: 美術、写真、無線、囲碁、科学研究の部で県代表として出場。茨城県開催、つくば市が総合開会式の会場であることから、開会式の受付・案内係として多くの生徒が参加した。

縄跳び世界大会 (香港) 出場: 中2。

ダブルダッチの部で優勝。他3部門で銅メダル。

〈SSH・科学研究関係〉

ジュニア・サイエンス・キャンプ (化学・生物分野)

7月 (筑波大学との連携活動) 小学生、高校生、大学院生と一緒に科学実験をする活動。

今年も充実した活動となった。

欧州原子核研究機構 (CERN) 訪問 (SSH 海外研修プログラム)・7月。6名の生徒を派遣。

(筑波大学の先生方の指導をいただきました。)

数学甲子園決勝大会出場 準々決勝敗退。

〈国際交流〉

SOSEP 交流 (本校の短期交換留学)・7月。

ニュージーランド、オーストラリアの交流校から9名の生徒が来校しました。

米軍基地高校生との科学研究交流 (筑波大学高大連携プログラム)・9月。

本校から23名の生徒が参加させていただきました。

◆茗溪会新潟支部総会

と き 平成26年 7 月 6 日(日)
 ところ ホテルサンルート新潟
 出席者は35人で例年通りです。
 第一部支部総会、第二部会員発表、第三部懇談会の流れでした。
 第二部の会員発表は3人の皆様でしたが、各分野で同窓が頑張っている様子がよくわかりました。
 我支部の今年の予定は1月に一般研修会、2月に若手研修会兼教員採用受験者研修会を実施することにしております。

新潟県支部長：永井成一



◆東京教育大学文学部言語学科ミニOB会

と き 平成26年 6 月26日(木)～27日(金)
 ところ 熱海警察共済保養所・ホテル弥生
 昨年に引き続いて言語学科ミニOB会が開かれ、11人の同窓生が参加した。昭和33年(1人)・34年(3人)・35年(4人)・36年(3人)卒業の面々である。
 事前に茗溪会事務局に赴いて改めて同窓生の名簿を作成したお陰で、呼びかけの対象がぐんと増え、今後少しずつだが参加者増を見込むことができるのではないと思われる。来年は横浜中華街に会場を求める予定。

記：岩佐晴夫35卒



◆筑波大学人文学類3期生第7回同窓会

と き 平成26年 6 月 7 日(土)
 ところ 晴海グランドホテル
 同期の片山氏が社長を務めてます「晴海グランドホテル」で全国から初参加の方を含め32名が集まりました。二次会・三次会も盛況で同ホテル宿泊組は深夜まで久闊を叙しかつ愉しく痛飲しておりました。次回からは、2年ごとに開催しようとのこと。 浅井一郎



◆大塚人文地理学OB会 第7回

と き 平成26年 6 月14日(土)
 ところ アルカディア市ヶ谷(私学会館)
 東京文理科大学・東京教育大学・筑波大学で人文地理学を学び、大学その他で研究と教育に携わってきた60歳以上の関東在住者を中心とした交流会で、19名が参加して開催されました。96歳から62歳まで皆、意気軒昂で、世代を超えて地理学の楽しみを語り合いました。
 写真：内山幸久(46院博地理) 記：田林 明(50院博地理)



◆昭和30年卒東京教育大学理学部数学科クラス会

と き 平成26年 6 月30日(月)
 ところ 林野会館
 参加者が8人になってしまいました。会場を林野会館にしたので、茗荷谷駅に集合し、懐しいキャンパスの跡地をいっしょに歩きました。
 ちょうど卒業60周年に当たる来年のクラス会をもって、残念ですが最後とすることにしました。

幹事：窪田 勝



◆バンコク茗溪会～由緒あるRBSCに老若男女18名が集合～

と き 平成26年 7 月 5 日(土)
 ところ RBSC(ロイヤルバンコクスポーツクラブ)
 平成26年初に会が発足し、2回目となる親睦会でしたが、多数の初参加者もあり、異国の地とは思えないほど、盛り上がった会となりました。あるいは、異国の地だからこそその盛り上がりかもしれません。世代も性別も生業も異なる皆様、茗溪会のもとに集い、楽しいひとときとなりました。会は、日高会長の乾杯に始まり、歓談を交え、皆様から自己紹介を頂戴し、最後は日本人らしく一本締めで、散会と致しました。 文責：大和 嶺 平成18年第3学年工学システム学類卒



◆東京教育大学特殊教育学科 9 期生同期会

と き 平成26年 7 月31日(木)～8 月 1 日(金)
 ところ 中央アルプス・駒が根
 佐藤泰正先生夫妻とともに



◆東京教育大学体育学部昭和51年卒業生 同窓会

と き 平成26年 7 月 5 日(土)
 ところ 京王プラザホテル「高民の間」
 卒業後38年が経過し、多くの仲間が「還暦」を迎え現職を退いたのを契機に、体育学部同期生の「同窓会」を初めて開催しました。物故者11名に黙禱を捧げたあと会食懇談に移り、57名の参加者全員より多彩なスピーチが行われました。宴は1・2次会合わせ4時間に及び、2年後大阪での再会を約束し散会となりました。
 実行委員長 日高哲朗



追 悼 録 (敬称略)

吉江 久弥 昭15文二 26・6・29
 〒603-8427 京都市北区紫竹上緑町43 妻 吉江 和子

武藤 孝男 昭16文三 26・8・8
 〒170-0002 豊島区巢鴨3-11-15 二男 武藤 英二

尾崎 弘明 昭20体専 26・6・5
 〒545-0014 大阪市阿倍野区西田辺町1-4-18 妻 尾崎 和枝

重松 樫三 昭20農教 26・3・9
 〒157-0071 世田谷区千歳台5-6-8 長男 重松 真尋

内山 太郎 昭20農教 26・1・30
 〒389-1107 長野市豊野町南郷2333 長男 内山 浩文

金田 玲亮 昭21大動 26・6・10
 〒440-0067 豊橋市上地町135 妻 金田 朝江

金城 和彦 昭22体専 26・2・19
 〒177-0034 練馬区富士見台2-31-18 長女 渕脇智香子

藤井 政一 昭22理一 26・7・6
 〒311-3423 小美玉市小川1491 長男 藤井 雄一

荒井 昭雄 昭24文一 26・4・25
 〒264-0017 千葉市若葉区加曾利町886-29 妻 荒井 洋子

小黑 英作 昭25体 26・4・2
 〒951-8151 新潟市中央区浜浦町1-248-12 妻 小黑美智子

吉田 寅 昭25大東史 26・5・14
 〒179-0081 練馬区北町1-33-7 妻 吉田八重子

高木 重信 昭25文五 26・7・5
 〒175-0094 板橋区成増2-29-5 妻 高木 悦子

溝上 岩己 昭26体専 26・4・10
 〒849-3201 唐津市相知町相知1466 長男 溝上 尚志

逝去会員氏名・卒年科・逝去年月日・
 遺族住所・氏名

守屋 貞男 昭26文三 24・10・8
 〒407-0263 韮崎市穴山町2613 長女 吉田 孝子

猿谷 九龍 昭27体 26・7・18
 〒225-0002 横浜市青葉区美しが丘2-28-7-407 三男 猿谷 豊

野間 優 昭27体専 25・9・24
 〒880-0944 宮崎市江南4-3-5 妻 野間 典子

仲下 雄久 昭27理二 26・5・27
 〒180-0006 武蔵野市中町1-12-10-1306 長男 仲下 雄一

田中 一水 昭29教大植 25・1・25
 〒182-0003 調布市若葉町2-10-19 妻 田中 祥子

野田 晃朗 昭31教大体 26・4・5
 〒494-0002 一宮市竈屋5-7-7 妻 野田 鈴恵

田川 利賢 昭32教大体 25・12・28
 〒180-0003 武蔵野市吉祥寺南町4-11-19 妻 田川 典子

内島 洋 昭33教大健 26・2・18
 〒360-0132 熊谷市津田新田447 長男 内島 拓也

坂口 孝一 昭33教大農 26・8・30
 〒891-0109 鹿児島市清和1-20-17 長女 坂口 恵子

橋本 勉 昭37教大体 26・1・6
 〒431-3105 浜松市東区笠井新田町1636 妻 橋本香代子

山本 良久 昭39教大教 25・12・31
 〒061-1373 恵庭市恵み野西2-4-6 妻 山本美智子

安田 清夫 昭39教大体 25・9・11
 〒590-0111 堺市南区三原台2-4-13-101 妻 安田 知子

中島 和彦 昭57筑一社会 26・7・17
 〒158-0082 世田谷区等々力5-30-13 妻 中島 有紀

広報

学生活動支援助成金の贈呈

今年で10回目となる茗溪会学生活動支援のための助成金の目録贈呈式が、7月10日(木)に筑波大学学長応接室において、江田昌佑本会理事長から永田恭介筑波大学長に目録が贈呈されました。引き続き、総合交流会館において江田理事長から受賞した13団体の代表者に支援助成金決定通知書が手渡されました。(グラビアページ参照)

「追悼のつどい」筑波大学で開催

「追悼のつどい」はこれまで、東京・大塚の茗溪会館で開催して参りましたが、今年度から会場を筑波大学の大学会館内の特別会議室に移して、9月13日(土)に開催されました。15家族、21名のご遺族の参列をいただき、本会からも多数の理事が参列し、遺影のみの25名を加えて40名の遺影が飾られた会場で11時半から12時まで追悼式は行われました。12時半からは会場を移して「懇談会」が開催されました。(グラビアページ及びP13参照)

第13回顕彰の準備進む

国内外で、継続して社会貢献(人材育成を含む)活動等を行い、その実績、成果を上げている団体、個人を対象とする本会の「顕彰」は9月末日までに全国から推薦された候補者を、10月15日(水)に外部委員を交えた選考委員会で選考します。理事長の承認を得て、11月26日(水)に筑波大学特別会議室等で顕彰式を行い、「茗溪賞」を贈呈する準備が現在、進んでいます。

追記

平成25年度 春の叙勲
瑞宝中綬章 五島祐治郎(33教大体) 兵庫

公開講座 今後の予定

*東京地区		今年度の予定は終了しました
*筑波地区		本会と筑波大学、学都資金財団の共催で開催されます。
(1)	日時	平成26年11月29日(土)
	場所	筑波研修センター
	講師	西川綾子先生(本会 理事 水戸植物園園長)
	テーマ	「年末・年始に楽しむ寄せ植え 鉢花の栽培と管理」
(2)	日時	平成26年12月13日(土)
	場所	筑波大学 国際会議室
	講師	熊倉功夫先生(静岡文化芸術大学長)
	テーマ	「茶の湯にみる日本の生活文化」

表紙の言葉―表紙デザイン 茗溪会副理事長 西川 潔

写真は9月13日に、筑波大学構内の北のはずれで撮ったものである。これまでだとこの時期、夏休み気分も抜けて、大学は活気を取り戻す時期だが、2学期制に移行し他大学並に10月から後期が始まるため、キャンパス内はまだ閑散としている。そこに競技姿の若者2名が走ってきた。光もいいし、赤と青のユニホームの取り合わせもよい。だが、撮影直後に映像を確認すると自転車は1台しか見えない。思わず振り返ったが誰もいない。不思議な気持ちで写真をさらに拡大すると、赤の後ろに青いヘルメットが僅かにのぞく。2台が完全に重なっていたのだ。見えたのは決定的瞬間が撮れないデジタルカメラの弱点である。

編集後記

・季刊誌『茗溪』では、今後、四回連続で「教育学者・清水一彦さん」と考える日本の教育」を連載致します。今回は、その第一回として、「6・3・3・4の学制はいまのままでいいのか」というテーマで筑波大学副学長の清水一彦さんを話し手に本会の理事で筑波大学の庄司一子さん、筑波大学の藤田晃之さんの三人で話しを進めていただきました。

次号(1084号)は第二回として「大学入試制度はどう改革すべきか」というテーマで清水一彦さんを話し手に、本会の理事で筑波大学副学長の阿江通良さんと藤田晃之さんの三人で、大いに語っていただく予定です。ご期待ください。

お願い

- ・正確な会員情報把握のために、住所、勤務先の変更はすぐにご連絡下さい。
- ・年会費のお振込みは、早めにお願いたします。

平成26年10月15日発行

発行所

一般社団法人 茗溪会

茗溪会事務局・大塚事務所

112-0012 東京都文京区大塚 一五二二三

TEL 〇三―三九四一―〇一三六

FAX 〇三―三九四一―七六七四

E-mail info@meikei.or.jp

URL http://www.meikei.or.jp

郵便振替記号番号 〇〇―一五〇―二四九七七

筑波事務所

305-8577 つくば市天王台 二一―

筑波大学・大学会館内

TEL 〇二九―八五〇一―〇四四

FAX 〇二九―八五〇一―〇四五

E-mail tsujimu@meikei.or.jp

印刷所 東京都文京区関口 一三九一〇

山浦印刷株式会社



Service Safety Sincerity
あなたのそばに。セキショウグループ。

SEKISHO

Energy for your Life

当社は「一般財団法人 関彰育英会」を通して、筑波大学
大学院博士後期課程の院生に、研究支援として奨学金の
支給を行っております。



関彰商事株式会社

代表取締役社長 関 正樹

つくば本部／茨城県つくば市二の宮 1-23-6 TEL 029-860-5151

若溪会担当：執行役員秘書室長 岡本 俊一
〈昭和56年 第一学群 社会学類 卒業〉

<http://www.sekisho.co.jp/>



安全に、快適に、正確に

大曾根タクシー株式会社

取締役社長 塚本 一也

(平成3年環境科学研究科修了)

☆24時間営業

☆お迎え料金無料

☆カード利用 OK!

☆貸切バス事業者より

安全性評価認定(★★)されました



〒300-3261 茨城県つくば市花畑3丁目19-4

TEL 029-864-0301

FAX 029-864-4727

メールアドレス <http://www.taxi.e-tsukuba.jp>

フリーダイヤル 0120-000-302

各営業所に通じます

日本酒 本格焼酎 来福 醸造元
来福酒蔵株式会社

日本酒 来福
真向勝負



桐の花酵母を使った
筑波大学の酒
純米吟醸
桐の華

ご注文は

〒300-4546

茨城県筑西市村田 1626

TEL 0296(52)2448

FAX 0296(52)6448

e-mail/

fujimura@raifuku.co.jp



smart
wellness
CITY スマートウエルネスシティ

健康づくりは
「まち」
づくりから

つくばウエルネスリサーチは
高齢化が進んでも、そこに暮らすことで
健康になれる「まち」

“Smart Wellness City”の
実現を支援しています！

※「健康」＝身体面の健康だけでなく、人々が生きがいを感じ
安心安全で豊かな生活を送れること



株式会社つくばウエルネスリサーチ

〒305-0817 茨城県つくば市研究学園6街区9画地

研究学園スクエアビル5F

TEL: 029-849-5800 FAX: 029-849-5800

Smart Wellness City 首長研究会事務局

2014年
7月10日刊行



もっと知りたい! 「科学の芽」の世界 PART4

筑波大学長 永田恭介 監修 「科学の芽」賞実行委員会 編

B5判・並製/250頁/1,800円+税 ISBN978-4-904074-32-9 C0040

「科学の芽」という言葉は、ノーベル物理学賞を受賞した朝永振一郎先生が残された言葉です。この朝永先生の言葉を受け継ぎ作られた、筑波大学主催「科学の芽」賞の受賞作品とその講評を科学者からのメッセージと共にまとめた作品集の第四弾です。今回は、第7回と第8回(2012・2013年)の受賞作品をまとめました。

子どもたちのみずみずしい感性がいっぱいの作品群を読んでみてください。

最新刊(2014.8.20初版発行)

◇サービスサイエンスことはじめ

高木英明 編著

一般社団法人 食医同源之会

〒124-0024 東京都葛飾区新小岩1-43-6
オリムピアビル 6F
TEL&FAX 03-3654-2410
代表理事 渡邊 悟 (56筑二農 62筑院博農)
http://syokuidougen.main.jp

堀内法律事務所

〒305-0025 つくば市花室1011番地
TEL 029(857)4411 FAX 029(857)4412

所長・弁護士 堀内 昭三 (35教大法政)

相続・法人設立・ビザ etc...

行政書士 高谷真一事務所

〒300-0826 土浦市小松ヶ丘町3番15号
TEL&FAX 029-821-8177

代表 高谷 真一 (平20筑修ビジ)

海城中学・高等学校

〒169-0072 東京都新宿区大久保3-6-1
電話 03-3209-5880

校長 水谷 弘 (昭40教大数)

経営・労務・年金etc.コンサルタント 福岡経営労務事務所

〒125-0042 葛飾区金町3-27-3
TEL 047(361)2618 FAX 047(361)2643

所長 福岡 一雄 (32教大法政)
社会保険労務士

聖徳大学 文学部

〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬550
電話 047-365-1111(代表)
E-mail: akifuji@seitoku.ac.jp

学部長 藤原 保明 (昭48教修英 平3筑博文言)

(株)東京科学光芸社 茗溪会館写真スタジオ

〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23
茗溪会館3階
TEL 03-3945-9390 FAX 03-3945-9392

JUWA 株式会社 十和観光

代表取締役 井坂 信洋
TEL 0300-2451 茨城県つくばみらい市箕輪254
TEL 0297(52)1221 FAX 0297(52)1220

スポーツ選手、文化人のマネジメント&キャスティング
トレーニングジム、鍼灸整骨院、デイサービスの運営

株式会社 スポーツカンパニージャパン

〒550-0003 大阪市西区京町堀1-17-8 京ビル5F
TEL 072-452-0030 http://tachiryugym.com
代表取締役 藤田 文武 (筑波大体育 2004卒)



永井建設株式会社

〒273-0115 千葉県鎌ケ谷市東道野辺3-1-7
電話 047(443)7908 FAX 047(443)7940

営業部長 高野 力 (昭48教大木工)

印刷・製本までトータルに対応

株式会社 ケエスアイ

東京営業所 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋1-6-7
九段NIビル2F

TEL 03-5357-1668 FAX 03-5357-1669



株式会社 長谷工 コーポレーション

〒105-8507 東京都港区芝2丁目32番1号
電話 03(3456)1578

執行役員 植岡 祥之 (昭57筑社工)

筑波での宿泊・研修にー

ご家族で、お仲間で 最大収容180名、お一人3,600円から/(消費税率引上後、料金改訂予定)
茗溪会員とご家族に割引あり
研修セミナー・サークル発表会・各種会議・学習合宿・部活動合宿に
シングル145室 ツイン5室 和室5室/研修室2室 (120・40名)
和室も研修室として利用可 (20畳、10畳)
館内食堂《こうせい》でパーティ・懇親会等 (数名から80名まで)

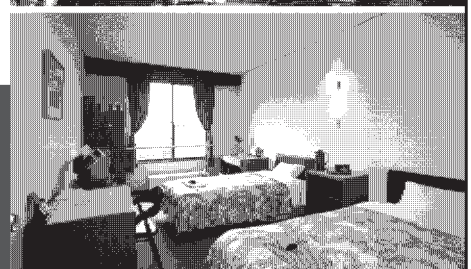
アクセス 秋葉原駅からつくばエクスプレスで45分「つくば駅」下車
●バス/「筑波大学循環」3つ目「筑波メディカルセンター前」下車
徒歩8分 ●つくば駅からタクシー/5分

一般財団法人 筑波学都資金財団

筑波研修センター

〒305-0005 茨城県つくば市天久保1-13-5
TEL 029-851-5152 / FAX 029-851-8886

http://www.meikei.or.jp/~center e-mail:center@meikei.or.jp



結婚は、 新たな成長。

結婚は、自力で人生を変えられる
今そこにある可能性です。

未来に期待し、新しい出会いに

誠実に向き合っている皆さまは、

受験・就職で人生を切り開いてきた人でもあります。

ご婚約カップルの声でご確認ください。

自分の意思で、運命の人を探し成長する。

キューピッドは自己実現のフィールドです。

ご婚約

検索

ホームページ“愛・ボード”にアクセス。
ご婚約カップルから独身の方へメッセージです。



キューピッドは慶應義塾大学OB会の親睦パーティから発足して34年。結婚を誠実にお考えの方限定の会員制クラブです。

■お問い合わせはお電話でもどうぞ。

☎ 0120-0333-82



■入会資格

結婚を誠実にお考えの独身の方

●男性 25～45歳、定職におつきの方。●女性 20～40歳

※入会に際して審査があります。

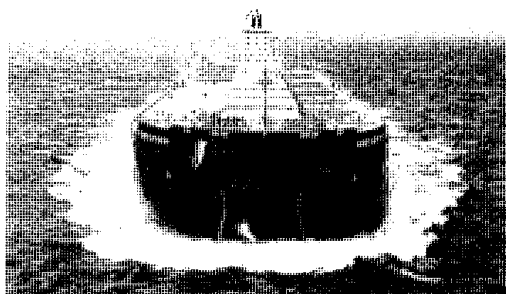
日本の心を受け継ぐ結婚



Cupid Club

〒104-0061 東京都中央区銀座4-2-11ヒューリック銀座数寄屋橋ビル7F 03-5524-3555 www.cupid.co.jp

Ships 21 Co., Ltd.
shipbrokers



外航大型貨物船・タンカー等の備船・売買の仲介
海運コンサルタント

世界中のマーケットと直結して日本のそして世界の
海運業に貢献すべく。 体力・気力があり、英語が
堪能な若い方、興味があったら来てどんな仕事か見
てみませんか。

〒105-0001 東京都港区虎ノ門5-4-10 仙石山アートハウス

TEL: 03-3438-2351 shipsuz@ships21.co.jp

代表: 鈴木 進 1973年東京教育大学理学部動物学教室卒

現: 筑波大学ラグビー部OB会、副会長



桜美林大学

J. F. Oberlin University

リベラルアーツ学群 / 健康福祉学群
ビジネスマネジメント学群 / 芸術文化学群

桜美林学園 理事長・学園長 佐藤 東洋士
入試広報センター相談役 川田 孝一 (昭39 教大総農)

【お問合せ先】

〒194-0294 東京都町田市常盤町 3758

桜美林大学インフォメーションセンター

Tel.042-797-1583 E-mail:info-ctr@obirin.ac.jp



新しい 生徒指導の手引き

四六判, 232ページ 本体1,800円+税

著者 ■ 諸富祥彦 (明治大学教授, 生徒指導提要の作成に関する協力者会議協力者)

- 発達促進的・予防的な生徒指導として「生徒指導プログラム」を提唱。
- 『生徒指導の手引』(昭和40年刊行・同56年改訂, 文部省) から『生徒指導提要』(平成22年, 文部科学省) に流れる共通点と, 新たに求められた改善点を実践的に解説。
- 教育カウンセリングやガイダンスカウンセリングを生かす生徒指導の充実とは?

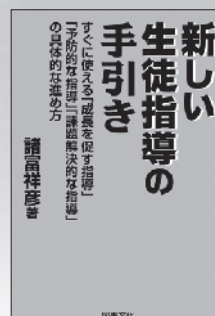
大好評! 諸富祥彦の著書

教師の悩みとメンタルヘルス 本体1,600円+税

教室に正義を! - いじめと闘う教師の13か条 - 本体1,400円+税

「7つの力」を育てるキャリア教育 - 小学校から中学・高校まで - 本体1,800円+税

自分を好きになる子を育てる先生 本体1,500円+税



〒112-0012 東京都文京区大塚1-4-15
<http://www.toshobunka.co.jp/>

図書文化

TEL. 03-3943-2511 FAX. 03-3943-2519
※本体には別途消費税がかかります。

茗溪学園中学校高等学校

茗溪学園は1979年に茗溪会の百周年記念事業で生まれた学校です

理事長 西野虎之介 (28農経)

校長 柴田 淳 (52体 56院修体)

〒305-8502 つくば市稲荷前1-1

<http://www.meikei.ac.jp> TEL 029(851)6611

- ◆寮のある学校です
- ◆Study Skillsを評価し伸ばす学校です
- ◆海外大学進学も選択肢にできます
- ◆部活動が盛んな文武両道の学校です



平成27年度茗溪学園入学試験日程

◎中学グローバルコースAO入試 (新設)

11月1日より受付開始

(詳細はお問い合わせください)

12月21日(日) 中学推薦入試

海外枠入試 (中学・高校)

1月 9日(金) 高校推薦入試

1月11日(日) 中学一般入試第1回

1月26日(月) 中学一般入試第2回

高校一般入試



アクセス つくばエクスプレスTX つくば駅A3A4出口 バスターミナル4番のりば「ひたち野うしく行」バス、
「環境研究所」下車徒歩5分 または JRひたち野うしく駅 東口バス乗り場「つくばセンター行」
e-mail kouhou@meikei.ac.jp (見学等) entry@meikei.ac.jp (入試等)